

2023年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2023

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド
①

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM
①

番号 No.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
国立大学 National University				
1	北海道大学 Hokkaido University	北海道札幌市 Sapporo-shi, Hokkaido	 1	(a)(b)
2	北海道教育大学 Hokkaido University of Education	北海道札幌市 等 Sapporo-shi, Hokkaido etc.	 4	(a)(b)
3	弘前大学 Hirosaki University	青森県弘前市 Hirosaki-shi, Aomori	 6	(a)
4	岩手大学 Iwate University	岩手県盛岡市 Morioka-shi, Iwate	 9	(a)
5	東北大学 Tohoku University	宮城県仙台市 Sendai-shi, Miyagi	 12	(a)
6	秋田大学 Akita University	秋田県秋田市 Akita-shi, Akita	 15	(a)
7	山形大学 Yamagata University	山形県山形市 Yamagata-shi, Yamagata	 18	(b)
8	茨城大学 Ibaraki University	茨城県水戸市 Mito-shi, Ibaraki	 21	(a)
9	宇都宮大学 Utsunomiya University	栃木県宇都宮市 Utsunomiya-shi, Tochigi	 23	(a)

番号 NO.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
10	群馬大学 Gunma University	群馬県前橋市 Maebashi-shi, Gunma	 26	(a)
11	埼玉大学 Saitama University	埼玉県さいたま市 Saitama-shi, Saitama	 29	(a)
12	千葉大学 Chiba University	千葉県千葉市 Chiba-shi, Chiba	 32	(a)
13	横浜国立大学 Yokohama National University	神奈川県横浜市 Yokohama-shi, Kanagawa	 35	(a)
14	山梨大学 University of Yamanashi	山梨県甲府市 Kofu-shi, Yamanashi	 38	(a)
15	信州大学 Shinshu University	長野県松本市 Matsumoto-shi, Nagano	 41	(b)
16	新潟大学 Niigata University	新潟県新潟市 Niigata-shi, Niigata	 44	(a)
17	筑波大学 University of Tsukuba	茨城県つくば市 Tsukuba-shi, Ibaraki	 47	(a)

<Note>
1. 「研修コース」(Type of Course)
(a) ... 主に日本事情・日本文化に関する研修
A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture
(b) ... 主に日本語能力の向上のための研修
A course intended mainly to improve Japanese language proficiency
2. 具体的な研修内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。
If you have questions about the detail of the training program, please contact the university directly.



北海道大学 (北海道)

北海道で日本語のスキルともうひとつの日本を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

北海道大学は、我が国における最初の高等農事教育機関として1876年に開設された札幌農学校に始まります。開設当時、札幌農学校は米国マサチューセッツ農科大学長であるウィリアム・S・クラーク博士を迎え、豊かな教養と高度の知識・技術を教授されました。クラーク博士の“Boys, be ambitious”の言葉に代表されるフロンティア・スピリットは、開学以来140年余にわたって本学の建学精神として受け継がれています。1919年、医学部が設置されると同時に従来の農科大学は農学部となり、その後、工学部、理学部等が設置され理科系の総合大学へと発展しました。1947年、文科系の学部が設置され初めて現在の「北海道大学」という名称が誕生、2年後の1949年には、新制の北海道大学が発足し、7学部1教養学科が設置されました。1953年には新制の大学院が設置され、現在12学部、21の大学院及び22の研究所・センター等を有する日本有数の総合大学です。

学部名：

文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・
医学部・歯学部・薬学部・工学部・農学部・獣医学部・水産学部

教員数：1,960名

学生数：学部 11,455名、大学院 6,544名、
研究所等 95名、計 18,094名

② 国際交流の実績

大学間交流協定数：51カ国・地域、195協定・199機関（2022年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数2,024人、日研生19人

2021年：留学生数2,057人、日研生16人

2020年：留学生数2,093人、日研生17人

④ 地域の特徴

北海道大学は、日本の北部、豊かな自然に恵まれた北海道にあります。大学のメインキャンパスは札幌の市街地にあり、美しい都市において必要なもののほとんどは、徒歩圏内にあります。港町である函館市にもう一つのキャンパスを持つ北大は、まさに日本の北方圏における革新的なフロンティアです。

○北海道大学へのアクセス：

東京－札幌間：飛行機で約90分

大阪－札幌間：飛行機で約120分



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化の双方に関する研究・調査活動に役立つ日本語能力の育成と、研究に必要な基礎知識、方法論・技能等の修得・運用を通じた日本語・日本語文化理解を目的とするコースです。プログラムの中で受講生の日本語能力の向上を図り、また、日研選択科目、多文化交流科目、国際交流科目の履修を通じて、日本文化・社会についての多様な指導を行います。

③ 受入定員

40名（大使館推薦15名、大学推薦25名）

④ 受講希望者の資格、条件等

受入の資格・条件としては、以下の全ての要件を満たすこととします。

a. 身分及び専攻

外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・日本文化に関する専攻課程を主専攻として履修している者。(ただし、1年生を除く)

b. 日本語能力

申込時に、中級レベル(日本語能力試験N3以上に合格している者又は同試験の合格者と同等の日本語能力)以上の日本語能力を有する者。具体的には、漢字500字以上を習得し、日常的な場面での自然に近いスピードで話される会話・平易な文章の読み書きができることが必要です。

⑤ 達成目標

a. 「話す・聞く・書く・読む」のそれぞれの技能において、各自が自己の目標を達成できるような日本語運用力を身につけること。

b. 各自の研究分野において、まとまった成果が発信できるような知見・日本語力を獲得すること。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
(在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

(第1期：9月～2月)

9月下旬：渡日

9月下旬～10月初旬：オリエンテーション

10月初旬：第1期授業開始

12月末～1月初旬：冬季休業

(第2期：4月～8月)

4月10日頃：第2期授業開始

6月第1金曜日から日曜日まで：大学祭

8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

第1期及び第2期を通して、選択必修科目(日本語科目)から10単位以上を含み20単位以上修得することを修了要件とします。この要件を満たした者には修了証書を授与します。なお、ブレースメントテストにおいて初級レベルと判断された者は、初級クラスの受講となります。初級科目の単位は修了要件に含まれないため、最終的に修了要件を満たさない場合、修了証書は発行されません。

※単位認定、単位互換等について

各期末に学生に対して成績表を交付するとともに、コース終了後、成績証明書を交付します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語を学習する選択必修科目と、日本語・日本文化に関する講義からなる選択科目により構成されます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

区 分	授業科目	単位
選択必修科目 (日本語科目)	中級日本語	1又は2
	上級日本語	2

第1期及び第2期を通して、選択必修科目(日本語科目)10単位以上を修得してください。中級日本語科目または上級日本語科目を履修します。それぞれ、日本の大学での研究生活に必要な「やりとり」「表現」「理解」のスキルを養うことを目的とし、1週間に7～9コマ(1コマ90分)程度履修します。

選択必修科目(日本語科目)のみ、学生が渡日前にオンラインで受験するブレースメントテストによりクラス分けがなされ、日本語能力別に中級レベル及び上級レベルのクラスを受講します。初級レベルと判断された場合は、初級レベルのクラスの受講となり、初級科目の単位は修了要件の単位には含まれません。

II) 選択科目

区 分	授業科目	単位
選択科目	異文化研究	2
	日本語研究	2
	日本文化研究	2
	特別講義	1, 2, 3又は4
	自主研究	2

選択科目には、日本人との共修科目である「多文化交流科目」(異文化研究)や、「日本語の文法」、「日本語の表記」、「日本の歴史」など日本語・日本文化研修生のためだけの講義科目(日本語研究・日本文化研究)が含まれます。

また、選択科目については、国際交流科目の「国際交流Ⅰ・Ⅱ」、全学教育科目又は各学部で開講される専門科目の履修をもって、当該選択科目の履修に代えることができます。

※日本語の授業概要は、下記によりホームページで閲覧が可能です。

北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部
(<https://isc.high.hokudai.ac.jp/>)

>日本語科目

>一般日本語コース

>開講科目

>日本語授業概要

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

選択科目の「多文化交流科目」(異文化研究)は、毎学期10科目前後開講されますが、その中には「北海道大学を発見しよう」など、見学を行う科目も含まれています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

選択科目の「異文化研究」は留学生と日本人学生が共に学ぶ「多文化交流科目」が主となります。

⑪ 指導体制

・1) 専任教員

氏 名	所 属	職 名	専 攻
小林 由子	高等教育推進機構	教 授	日本語教育・学習科学
鄭 惠先	高等教育推進機構	教 授	日本語学・社会言語学
平田 未季	高等教育推進機構	准教授	語用論・認知言語学
杜 長俊	高等教育推進機構	准教授	地域日本語教育・会話分析
山畑 倫志	高等教育推進機構	講 師	文章表現法・インド哲学

・2) 個別指導

a. 学業面

コース・ディレクターが必要に応じて個別指導を行います。

b. 生活面

1年間を通して、カウンセラーが必要に応じて相談業務にあたります。

■宿 舎

北海道大学には、恵迪寮(单身男子)、霜星寮(单身女子)、北大インターナショナルハウス(单身、夫婦、家族)の宿舎があり、日本語・日本文化研修生は上記のいずれかへの入居が可能となっています。



■修了生へのフォローアップ

修了生は、出身大学の学部に戻り、本コースにおける日本語・日本文化に関する研修成果を生かし、卒業に向けて学習を継続することになります。

本コース修了生の中には、出身大学を卒業後、日本に戻ってくる人も多くいます。日本で就職した者や本学の大学院修士課程の学生として在籍している者も少なくありません。なかには、本学の教員として採用されている者もいます。

大学院進学希望者に対しては、コース在学中に、ディレクターが相談に応じます。また、日本での就職希望者に対しては、北海道大学のキャリアセンターがセミナーや情報提供を行っています。

また、修了後もSNSなどを通じて交流が続き、「国際的な人間関係ができたこと」を成果としてあげる修了生も少なくありません。



■問合せ先

<担当部署>

北海道大学学務部国際交流課

住所：〒060-0815

北海道札幌市北区北15条8丁目

TEL： +81-11-706-8058

FAX： +81-11-706-8067

Email： jlcsp@oia.hokudai.ac.jp

<ウェブサイト>

日研コースのホームページ：

<https://www.global.hokudai.ac.jp/admissions/exchange-student-admissions/exchange-programs-in-japanese-jlcsp/>

北海道大学：

<https://www.hokudai.ac.jp/>

担当教員：小林 由子



北海道教育大学 (北海道)

日本語や日本文化、教育制度、北海道の文化や社会を学習できます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

北海道教育大学は、教育学部1学部が5つのキャンパス（札幌、函館、旭川、釧路、岩見沢）に分かれており、日本語・日本文化研修留学生は、札幌キャンパスで学びます。

札幌キャンパスに設置された教員養成課程では、札幌の特色を活かしながら北海道全域にわたって教育現場に密着した教員養成を行います。

② 国際交流の実績

国際交流協定教育機関14か国/地域 37大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 50人、日研生 4人

2021年：留学生数 13人、日研生 4人

2020年：留学生数 88人、日研生 1人



浴衣着付体験と北海道開拓の歴史村訪問の様子

④ 地域の特徴

北海道は、日本の最北端に位置し、世界自然遺産の知床をはじめ雄大な自然に恵まれ、食文化も優れていることから、観光地としても有名です。北海道の夏は、台風の影響が少ない上、日本の他の地域に比べると気温が低いため、とても過ごしやすいです。

また、冬は雪が積もり、気温が -10°C 以下になる地域もありますが、スキーや雪祭りなど、冬の楽しみも体験できます。

■研修・コースの概要

※授業や研修内容は、新型コロナウイルス感染症の状況により変更となる可能性があります。

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

学生の教育、地域性を生かした人材育成、課程との連携を重点として、日本文化・日本事情について深く学ぶ。

b) 主に日本語能力の向上のための研修

北海道教育大学において学習・研究活動を行うために必要な基礎的な日本語能力を身につける。



風呂敷体験講座参加の様子



② 研修・コースの特色

本プログラムでは、留学生向けに用意された日本語を学ぶ授業と日本文化を学ぶ授業の両方に参加することができます。全ての授業は日本語で行われており、日本語能力に応じて日本人学生向けの授業の受講を許可されることもあります。

大学の授業に加えて、学生サークル(クラブ活動)に参加することで、日本人学生とのさまざまな交流ができます。また北海道の地域性を生かして、北海道の大自然や先住民であるアイヌ民族文化について学ぶ研修旅行もあります。

③ 受入定員

5人（大使館推薦 3人、大学推薦 2人）

④ 受講希望者の資格、条件等

・日本以外の大学学部にて在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻し、日本語の初級レベルの学習を終了した者。

・日本語・日本文化に関する分野以外の専攻に在籍している場合であっても、日本語・日本文化に強い関心を持ち、継続的に学習している者。

※日本語能力試験N4以上取得、又は日本語学習時間数300時間以上が望ましい。

⑤ 達成目標

日本語での日常会話がほぼ普通に話せるようになること。具体的には、日本語能力試験N2以上に合格できる能力を身に付けること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
10月：オリエンテーション
6月：研修旅行（予定）
8月：修了式
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

決められた日本語教育科目、日本事情・日本文化関連科目の受講（以下⑩を参照）及び修了小論文の執筆を修了要件とし、プログラムを修了した者には、修了証を授与し、成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

学習・研究活動を行うための基礎的な日本語を身に付ける「日本語集中コース」（必須科目のa)～d)を履修するコース）、日本語・日本文化・日本社会についての研究を行う「日本研究コース」があります。（日本語能力検定試験N1程度の留学生は日本語集中コースの履修が免除されます。）全ての授業が日本語で行われます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

a) 「総合日本語」

（非N1:10月-2月 週4コマ, N1:免除）

日本語の4技能を総合的に高めるとともに、日本事情に関する理解を深める。

b) 「日本語技能」

（非N1:10月-2月 週2コマ, N1:免除）

日本での生活や学習において必要となる実践的日本語の能力を高める。

c) 「日本語会話」

（非N1:10月-2月 週2コマ, N1:免除）

様々なテーマについて日本語で会話しながら日本語の能力を高めたり日本についての理解を深める。

d) 日本の文化や社会についての留学生向け講座 （4月-8月 週2コマ）

日本の文化や社会の特色や特質について、講義・講演を聞いて学びます。内容は年度や学期によって変わります。

e) 留学生向けの体験型講座

（4月-8月 週1コマ）

日本の文化や社会について実体験を通じて学びます。内容は年度や季節によって変わります。

f) 日本語文章作成のための講座

（4月-8月 週4コマ）

各自が興味を持つテーマについて、小論文を執筆します。それに必要な日本語作文の力を付けるための講座です。

g) 一般学生向けの授業

（N1:10月-2月 週7コマ）

一般学生向けの授業の中から必要科目数以上選択して、日本人学生と一緒に受講します。

II) 選択科目

a) 「現代日本文化」

（非N1:10月-2月 週2コマ）

講義とディスカッションを通して日本の現代文化について学ぶ。

b) 一般学生向けの授業

一般学生向けの授業の中から科目を選択して、日本人学生と一緒に受講します。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

2) - I) - e) 参照。

※2021年度は浴衣着付体験、風呂敷講習、日本が講習、北海道開拓の村見学等を実施。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

2) - I) - 1 g) 参照。

⑪ 指導体制

責任教員：中川 大（哲学）

国際交流・協力センター

札幌校センター長

協力教員：開設科目担当教員

大賀 京子（日本語教育）

阿部 二郎（日本語教育）

国際交流・協力センター教員

■宿 舎

留学生用の寮はありません。札幌市内の民間学生寮や札幌国際交流会館等を紹介します。

①過去3年間の日研生の宿舎入居状況

大学が紹介した民間学生寮に入居。

②宿舎費（月額）

●民間学生寮 61,000円（光熱水料費、食費込み。）

※大学までの通学費用等が別途かかります。

●札幌留学生交流センター 27,600円

※光熱水料費、食費及び大学までの通学費用等が別途かかります。

■修了生へのフォローアップ

修了後のキャリアパス

帰国後に本国の大学を卒業し、日系企業への就職を果たし、日本語を使用して勤務されている方が多数います。

また、本国や日本の大学院へ進学し、日本もしくは日本語に関わる研究をさらに進めている方々もいます。中には日本で就職をしている方や、札幌市の国際交流員を経験した方もいます。

■問合せ先

<担当部署>

北海道教育大学教育研究支援部国際課

住所：〒002-8501

北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

TEL：+81-011-778-0927（直通）

FAX：+81-011-778-0675

Email：g-kokusai@j.hokkyodai.ac.jp

<ウェブサイト>

北海道教育大学：

<https://www.hokkyodai.ac.jp/international/>



弘前大学

弘前大学 (青森県)

歴史文化豊かな弘前で日本を学び、世界に発信し、地域と共に創造する。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1949年に設立されてから、青森県内および近県の教員、医師、公務員等の人材育成を担ってきた、歴史のある国立大学です。5学部、7研究科で多彩な分野の研究を行っています。

設 立 : 1949年
学生数 : 合 計 : 6,958人
学部生 : 5,979人
大学院 : 979人
留学生数 : 159人

○学 部

人文社会科学部、教育学部、理工学部、
農学生命科学部、医学部

○大学院

(修士課程)	(博士課程)
人文社会科学研究科	医学研究科
保健学研究科	保健学研究科
理工学研究科	理工学研究科
農学生命科学研究科	地域社会研究科
地域共創科学研究科	

② 国際交流の実績

海外協定校54校 (22国)
海外拠点2箇所 (中国1, タイ1)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2022年 : 留学生数159人、日研生2人
2021年 : 留学生数152人、日研生3人
2020年 : 留学生数190人、日研生0人

④ 地域の特徴

弘前大学がある弘前市は、人口約17万の町に4つの大学がある学園都市です。もともと津軽藩の城下町として栄えた由緒ある町ですが市の周囲は農村部で、比較的物価が安く、留学生には住みやすい町であると言えるでしょう。市はコンパクトにまとまり、大学の周囲には学生向けのアパート、食堂や居酒屋などで学生街が形成されています。市の繁華街に歩いて15分~30分程度で行くことができます。学生の主な交通手段は自転車です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

○様々な分野の勉強が可能な環境

留学生用の日本語・日本事情関連科目から、学部の専門科目まで、幅広い分野の授業を受けることが出来ます。

また、学部の教員が指導教員としてつきますから、日本語能力に応じて日本人と同じ指導を受けることができます。

弘前は地方の小都市ですが、伝統ある城下町で、伝統的な生の日本文化に容易に触れることができます。

○学部にも所属して研究室の一員に

日研生は、人文社会科学部か、教育学部かいずれかの学部にも所属し、特に日本語能力が高い学生は日本人学生と一緒にゼミナールに参加、ゼミの行事に参加しています。

(近年、日研生を受け入れた教員の専門分野は、日本文学、比較文学、日本史、思想史、国語学、言語学、言語教育学、社会学、日本美術学、民俗学、考古学、国際政治などです。)

○充実した実地見学・体験学習

留学生向けの「日本語・日本事情関連科目」は実地体験、体験学習を多く取り入れています。

③ 受入定員

4名（大使館推薦 2名、大学推薦 2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

専門によって以下の条件を加えます。

・日本で調査・研究活動をする予定の学生は、調査・研究活動に必要な言語能力があること。

・日本で文献収集を行う予定の学生は、日本語で文献を読む能力があること。

（注意）

日本に関する特定の専門分野（日本文学「古代、中世、近代、現代」、日本語学「古代、中世、近代現代」、日本史「古代、中世、近代」、日本考古学、日本美術史、日本経営、民俗学など）を学ぶ希望のある学生は、分野名を願書に明記することが必要です。

また、文学と歴史については、時代を示すことが可能であれば望ましいです。学びたい分野として「日本語」「日本文化」「日本事情」としか書かれていないと、これらは日本の大学では専攻名としては扱われていませんので、専門が違う教員が指導教員になる場合もあります。

⑤ 達成目標

○日本語：より高い総合日本語力（N2～N1超）の獲得。

○研究対象分野：対象分野についてのプロジェクトを行ったり発表したりできるようになります。

⑥ 研修期間（在籍期間）

・2023年10月1日 ～ 2024年8月31日

1：秋学期 10月1日 ～ 2月上旬

2：春学期 4月上旬 ～ 8月上旬 各16週

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日

秋学期オリエンテーション

10月： 総合文化祭

11月： 青森県留学生交流ジャンボリー

12月： 桔梗野町会餅つき大会

12月： クリスマスパティー

2月： 春季外国人留学生卒業・修了懇談会

4月： 春学期オリエンテーション

5月： 弘前さくらまつり

8月： ねぷた祭交歓会・秋季外国人留学生卒業・修了懇談会

8月： 桔梗野町会盆踊り

8月下旬： 帰国



⑨ コースの修了要件

○本プログラム修了者には、必修科目と選択科目を合わせて、1年で20単位の修得と修了レポートの提出を条件として、研修修了証書を授与します。

○授業科目を履修した者については、試験の上、合格した者に単位を与えます。

○早期修了は認めておらず、成績証明書の発行は可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

一般学生・短期プログラム用の授業を受講しながら個々の専門に応じた資料収集、調査等の指導を受けます。

2) 研修・コース開設科目

1) 必須科目

日本語科目（2022年度後期）

※開講科目は変更になる場合があります。

（科目名）	（回数）
入門	週4回
基礎	週4回
初級	週3回
中級（総合）	週3回
中上級（読解）	週1回
中上級（作文）	週1回
中上級（聴解）	週1回
中上級・上級（文法）	週1回
中上級・上級日本事情（プレゼンテーション）	週1回
上級（読解）	週1回
上級（アカデミックライティング）	週1回
上級（アカデミック聴解）	週1回

日本語プレースメントテストの結果によって、自分のレベルに応じた日本語科目を受講することになります。

Ⅱ) 選択科目

(科目名)

日本文学とアイデンティティの形成
トランスナショナリズムの音楽
日本の表象文化 (『鬼滅の刃』)
現代日本文化論 (『千と千尋の神隠し』)
日本の女性による文学
日本の絵本の世界
日本の戦争文学
自主研究(日本語または英語による日本研究の個人指導)

※以下の3及び4についても選択科目である。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等への参加ができる科目

(科目名)

日本の文化史入門—津軽近代文化史
日本の伝統工芸—津軽の工芸
インターンシップ—リンゴ栽培、商品開発、マーケティング
インターンシップ—観光PR
インターンシップ—シティ・プロモーション
インターンシップ—Webマーケティング
インターンシップ—地域ツーリズム
青森エクスカッション (縄文遺跡と博物館展示の見学)
青森の食と産業化 (伝統食を伝承する女性団体での食体験)

4) 日本人学生との共修がある科目

(科目名)

言語学の世界—やさしい日本語と言語学
学習中の言語でのコミュニケーション
異文化間コミュニケーション
青森エクスカッション (縄文遺跡と博物館展示の見学)
青森の食と産業化 (伝統食を伝承する女性団体での食体験)
地域プロジェクト—津軽地域文化国際共修

青森県の多様性と活性化—多文化共生社会における自己のキャリアを考える
地域プロジェクト—外国人の生活を豊かにするやさしい日本語リライト

その他所属学部において開講される授業・教養科目等

⑪ 指導体制

・日本語担当教員

小山 宣子 国際連携本部 准教授
(日本語教育学)

長尾 和子 国際連携本部 准教授
(日本語教育学)

高橋 千代枝 国際連携本部 助教
(日本語教育学)

・日本文化・日本事情担当教員

諏訪 淳一郎 国際連携本部 准教授
(文化人類学・日本文化論・サブカルチャー論)

サワダ ハンナ 国際連携本部 准教授
(比較文学・文化)

学業面では、主に学部の指導教員と国際連携本部の教員が、生活面では、指導教員および国際連携本部の職員が指導、助言を行います。



■宿 舎

国費外国人留学生(日研究生を含む)を対象とした宿舎は現在ありません。希望により、市内のアパート(3万円~4万円程度)を紹介できます。

■修了生へのフォローアップ

○フォローアップ実績の一例

- ・修了レポートを卒業論文につなげるために、弘前大学教員がサポート
- ・再度日本に留学し、大学院に出願している学生へ、弘前大学教員がサポート
- ・母国での研修分野での大学院進学をサポート

○修了後のキャリアパスの一例

- ・母国で日本語教員として就職
- ・母国や日本の企業で専門性を生かした仕事に従事

■問合せ先

<担当部署>

弘前大学国際連携本部

住所: 〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL: +81-172-39-3109 (直通)

FAX: +81-172-39-3133

Email: jm3109@hirosaki-u.ac.jp

<ウェブサイト>

弘前大学国際連携本部:

<http://www.kokusai.hirosaki-u.ac.jp/>

弘前大学:

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



岩手大学 (岩手県)



知識、体験、分析を融合させた知的発見による学びの場を提供

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

岩手大学は、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを目指すことを理念とする総合大学である。人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、農学部の4つの学部及び地域創生専攻、総合文化学専攻、理工学専攻、農学専攻からなる総合科学研究科、教育学研究科、理工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科の5つの研究科がある。

教育研究基盤施設として、国際教育センター、情報基盤センター、保健管理センター、図書館が設置されている。研究施設としては、地域防災センター、平泉文化研究センター、ものづくり技術研究センターなどがある。

学生数は約5,400名、教職員約720名（うち教員約460名）の大学である。4つの学部がすべて同じキャンパスに設置され、10分以内でキャンパスのどこへでも移動でき、学部を超えた交流が盛んである。

本学には約50万点の資料や標本等がある。これらの財産を一般市民にも活用してもらう目的で、大学全体を総合博物館として“岩手大学ミュージアム”の名称で一般公開している。

② 国際交流の実績

2022年10月1日現在で、中国・ロシア・モンゴル・タイ・アメリカ等20カ国1地域、62の大学・研究機関等と国際交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	2020	2021	2022
留学生総数	201	191	173
日本語・日本文化研修留学生 (各年度10月の受入れ人数)	0	1	0

④ 地域の特色

本学の位置する盛岡市は、北東北の交通の中心地であり、豊かな自然に囲まれた人口30万の教育・文化都市である。春夏秋冬の移り変わりが美しく、それぞれの季節を楽しむことができる。また、小規模都市ながら、生活しやすい環境である。

岩手は、宮沢賢治・石川啄木・野村胡堂・萬鉄五郎・田中館愛橘・金田一京助など、学術・文化に貢献した多くの人材や、後藤新平、新渡戸稲造ら国際的に活躍した人物を生み出した土地である。総理大臣も4人輩出している。県南部に位置する平泉はかつて奥州藤原氏が栄華を誇った土地で、2011年6月にユネスコの世界遺産に登録された。2015年7月に、ユネスコ世界文化遺産に登録された橋野鉄鉦山も釜石市にある。また、県中央部の遠野は、多くの民話や伝承が残り、民俗学者 柳田國男の『遠野物語』で有名である。このほかにも、さまざまな芸能、食、工芸等の伝統文化が受け継がれる豊かな地域である。

2011年3月の東日本大震災では沿岸地域を中心に大きな被害を受けたが、地域の復興・再生が進められ、その知見は他地域からも注目されている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースのねらいは、日本語能力を高めながら及び日本の文化・歴史・地理・政治・経済・社会・教育等について理解を深めさせることにある。教室内の学習にとどまらず、日本文化体験、地域住民との文化交流活動、ボランティアなど様々な体験学習が豊富に用意され、体験を通して「日本語」「日本文化」とどちらも学べるのが本学のプログラムの特色である。なお、歴史、文化については英語による授業も開講されているほか、日本人学生や他のプログラムの留学生との共修プログラムが豊富で、日本人学生、留学生とともに、日本や岩手に対する理解を深めることができる。

また、滞在中を通じてひとつのテーマについて研究する「個別研究」を通じて、実践的な研究力を高める。卒業論文の基礎研究とすることも可能である。

③ 受入定員

5名（大使館推薦4名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースの受講要件は、以下のとおりである。

- 1) 中上級以上の日本語受容力（日本語能力試験N2合格相当以上）ならびに、大学生活に必要な会話能力、文章作成能力を有する。
- 2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻している。

⑤ 達成目標

本コースの達成目標は以下の通りである。

- 1) 日本語によるアカデミックな文章作成力、口頭発表力を習得する。
- 2) 日本や岩手について体験に基づく幅広い知識を獲得し、理解、解釈する能力を得る。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年10月 ～ 2024年8月

（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

修了式は8月初旬予定

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬 来日、開講式・オリエンテーション

10月 不来方祭（文化祭）

11月 多文化コミュニケーション合宿研修

フィールドスタディ（企業・工場見学）

12月 着物ワークショップ

1月 フィールドスタディ（スキー）

6月 留学生と市民のガーデンパーティー

多文化コミュニケーション合宿

7月 個別研究発表

8月 盛岡さんさ踊り参加

プログラム修了式

8月下旬 帰国

⑨ コースの修了要件

修了判定＝必修科目及び選択必修科目の条件を満たした者について、履修科目の成績により判定し、コース修了証を発行する。また、成績等の条件を満たした場合、各履修科目について単位修得証明書を発行する。なお、原籍大学の都合等により、7月末での修了も認めることがある。（応相談）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本コースは以下の領域の授業・活動からなる。

日本語・日本事情等に関する授業

個別研究

各自の研究テーマに関する専門の授業

指導教員の助言のもとに、留学生向け科目のみならず、本学の教養教育科目、専門科目の中から各自の能力、関心に応じて選択し、履修することができる。自由度の高いカリキュラムを活用することにより、独自の日本語・日本文化の研究を深めることが可能となる。

「個別研究」では日本語・日本文化に関するテーマを選択し、文献分析、調査などにより研究を進め、その成果発表を行う。

2) 研修・コース開設科目

★必修科目（集中・30時間）

個別研究：日本語・日本文化のテーマに関する研究。ポスター、論文等による発表。

★選択必修科目

Ⅰ．日本語（各学期3コマ3単位・90時間以上）

＊日本語レベルにより選択し、履修する

【中級後半レベル】

中級日本語Ⅱ文法：N2レベルの日本語文法学習

中級日本語Ⅱ会話：状況によるスピーチレベルの使い分け能力学習

中級日本語Ⅱ作文：簡易なレポート、要旨作成練習

中級日本語Ⅱ漢字：N2レベルの漢字学習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習



着物ワークショップ



ガーデンパーティー

【上級レベル】

上級日本語A：討論、ディベート練習

上級日本語B：論文作成練習

上級日本語C（文系）：歴史を中心とした文系文献理解

上級日本語C（理系）：理系文献理解

上級日本語D：論文・要旨等の読解練習

上級日本語E：学術的口頭発表練習

上級日本語F：論文作成

上級日本語G文系：文系文献理解

上級日本語G理系：理系文献理解

上級日本語H：論文読解練習

＊専門科目の日本語学関連科目を履修した場合も、「日本語科目」として認める。

Ⅱ．日本文化・社会（各学期2コマ4単位・60時間以上）

※変更となる可能性があります。

Iwate Studies A：古代から中世の岩手の歴史について遺跡、博物館等の見学と検討（見学・地域交流も含む）

Iwate Studies B：近世以降の岩手に関する見学と検討（見学・地域交流も含む）

日本事情A：日本各地の歴史を軸とした地域事情学習

日本事情B：日本の政治の歴史の変遷学習

3) 見学、地域交流等の参加

フィールドスタディ（企業見学/工場見学/スキー）

着物ワークショップ

4) 日本人との共修等の機会

※選択必修科目(日本文化・社会)に含む
※変更となる可能性があります。

Japanese History A：古代・中世史学習

Japanese History B：近世以降の歴史学習

Comparative Japanese History A

：日本史と世界史の対照1

Comparative Japanese History B

：日本史と世界史の対照2

Japanese Traditional Culture A

：生け花学習1(実技含む)

Japanese Traditional Culture B

：生け花学習2(実技含む)

多文化コミュニケーションA：日本人学生と留学生との共修により日本社会のコミュニケーショントピックを比較文化的に体験、討論する。中学生との合宿研修を含む。

多文化コミュニケーションB：日本人学生と留学生との共修により日本社会のコミュニケーショントピックを比較文化的に体験、討論する。合宿研修を含む。

School Internship I：岩手県内の初中等教育機関での英語教育実習と学校事情学習1(見学・地域交流も含む)

School Internship II：岩手県内の初中等教育機関での英語教育実習と学校事情学習2(見学・地域交流も含む)

5) その他の講義、課外活動

人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部で開講されている専門教育科目の中から、各自の能力、関心に応じて講義を選択することができる。これらの科目履修も強く推奨する。

また、課外活動として、地域の学校訪問による自国紹介事業や子どもとの交流事業、地域の祭事への参加、見学、体験活動が豊富に準備されている。さらに、学内で、日本人と留学生との交流サロンである日本語カフェをはじめとする、グローバルビレッジでの各種イベント、公開講座等も日々開催されており、これらの活動への積極的な参加が推奨される。

⑪ 指導体制

留学生の専門分野や興味・関心にマッチする専攻の教員が、指導教員としてあたる。また、日本語指導や生活・就学上の相談などについては、国際教育センターの教員が担当する。

国際教育センターの専任教員は、次のとおりである。

氏名 Name	
松岡 洋子 Ms. Yoko Matsuoka	日本語教育 Japanese language education
尾中 夏美 Ms. Natsumi Onaka	英語力向上のための企画・運営、留学指導、海外研修の企画・運営 Education Management for English Skills Improvement, Study Abroad Consultation, Planning and coordination of Study Abroad Programs
アンデス カールキビスト Mr. Nils Anders Carlqvist	日本事情・岩手学(歴史、文化、宗教)、短期留学(インドネシア、スウェーデン)、いけばな・古代出雲(風土記、神話) Japan Studies, Iwate Studies (History, Culture, Religion), Short-term Content-based International Program (Indonesia, Sweden), Japanese flower arrangements, Ancient Izumo (Fudoki, Mythology)
ジェイコブ ピーターセン Mr. Jacob Petersen	ICTプラットフォーム管理、ツールとしての英語教育実施計画開発、ICTツールを活用した教育トレーニング ICT Platform management/design, Development of English learning schemes, ICT training



フィールドスタディ(スキー)

■宿 舎

キャンパス内に位置する国際交流会館に入居することができます。部屋には、シェアハウスタイプ(4人1ユニット)と単身室があります。

月額宿舎料(光熱水費を含む)：

【シェアハウスタイプ】33,000円

【単身室】36,000円

施設使用料：30,000円(1回のみ)

インターネット年間使用料：24,200円

寝具年間レンタル料：11,000円



シェアハウスタイプ

■修了生へのフォローアップ

帰国後の進路等について、継続的に連絡を取り、情報交流や必要な支援を行うとともに、留学生同窓会への参加を呼びかけ、同窓生との交流も図る。また、日本での就職希望者について、キャリア支援課と協力し、ガイダンス等の支援を行う。

■問合せ先

岩手大学学務部国際課

住所：〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-34

TEL：+81-19-621-6927(直通)

FAX：+81-19-621-6290

Email：gryugaku@iwate-u.ac.jp

岩手大学国際教育センターホームページ

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/>

岩手大学ホームページ

<http://www.iwate-u.ac.jp/>



東北大学 (宮城県)

多種多様な国際共修授業と文学専門科目が魅力

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 東北大学は日本で3番目の国立大学として1907年に創設されました。現在、10の学部、15の大学院研究科、3つの専門職大学院、6つの研究所があります。国立大学で最初に女子学生の入学を許可した伝統の「門戸開放の精神」と「研究第一主義」にもとづき、国際的な大学として、教育・研究で重要な役割を果たしています。

2) 学部名、教員数、学生数は次のとおり。
(2022年5月)

学部：文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部

教員：3,168名

学生：学部学生10,629名

大学院生 6,962名 計17,591名

② 国際交流の実績

留学生：2,074名 (86カ国・地域) (2022年5月)

外国人研究者：885名 (2021年度受入実績)

大学間交流協定：252機関 (37カ国・地域)

(2022年5月)



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2022年：留学生数2,074人、日研生4人

2021年：留学生数2,044人、日研生4人

2020年：留学生数2,081人、日研生2人

④ 地域の特徴

東北大学のある仙台市 (人口約100万) は城下町として栄えた都市で、現在は東北地方の経済・文化の中心地です。東京からは新幹線で1時間半の距離です。昔から「杜の都」と言われ、緑が豊かで美しく住みやすい都市として知られています。青葉まつりや七夕まつり、SENDAI光のページェント (イルミネーション) など、様々な季節のイベントが開催されます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、多様な日本語・日本文化関係の授業の中から、当人のレベル・目的に合う授業を選択して受講する方式です。自主的な学習・研究活動を好む学生に適しています。多くの日本語の授業に加えて、日本思想史、日本文学関連の授業を常時開講しています。発表の仕方や、レポートの書き方などアカデミック・スキルの指導にも力を入れています。

③ 受入定員

10名 (大使館推薦9名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムへの応募者は、原則として次の条件を満たすことが求められます。

1) 中級以上の日本語能力 (国際交流基金が実施している日本語能力試験のN2以上の能力) を有すること。

2) 原籍大学において、日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。

⑤ 達成目標

日本語能力の向上、および日本・日本文化に対する理解を深める。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

研修期間：2023年10月上旬 ~ 2024年9月下旬

(在籍期間：2023年10月1日 ~ 2024年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ~ 2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日

10月：オリエンテーション、開講式

10月-8月：日本文化研修 (文化体験：茶道、和太鼓、華道、七夕飾りなど、実地研修：山寺など)

国際交流行事 (日本人学生との交流会、国際祭りなど)

8月：修了発表会

9月：修了式

9月下旬：帰国



⑨ コースの修了要件

所定の課程（年間14コマ/週 以上）の修得を終え、修了レポートを提出し、指導教員がその成果を認めた留学生については、修了式にて修了証書を授与します。一つの授業（1コマ）は90分です。

表1. 修了に必要な履修コマ数

	種別	コマ数/週		
		秋冬学期	春夏学期	計
必修	日本語・日本文化演習	1	1	14以上
選択	日本語科目	2以上		
	国際共修科目	2以上		
	専門科目	2以上		
修了レポート（口頭発表含む）				

注：1学期に最低7コマは履修する

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- 研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会や文化の研究手法や知識を身につけることができます。
- 留学生と日本人学生がともに学ぶ、問題解決型・プロジェクト型の授業が数多く提供されています。協働学習を通してより深く日本を学ぶことができ、授業外でも日本人学生と積極的な交流を図ることができます。
- 専門家に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を身につけることができます。同時に、日本思想史、日本文学など様々な関連科目を学ぶことができます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

- 「日本語・日本文化演習」

受講生が主体的に日本文化について調査を行い、修了レポートや研究発表の技能を習得します。

II) 選択科目・内容

i) 日本語科目

習熟度によって幅広く選択履修できるよう、各学期に中級～上級レベルの科目を提供しています。

表2. 選択科目（日本語科目）

授業科目		コマ数/週	時間数/学期
日本語中級 [受講生のレベル：B1]	総合	4	90
	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	漢字・語彙	2	45
日本語中上級 [受講生のレベル：B2]	総合	2	45
	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	漢字・語彙	1	22.5
日本語上級 [受講生のレベル：C1]	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	ビジネス日本語	1	22.5
日本文化演習	古文入門	1	22.5
	漢文入門*	1	12
	くずし字入門*	1	12
	前近代日本の歴史と思想	1	22.5

注：*はクォーター科目



ii) 国際共修科目

国際理解教育、国際化教育のため、留学生と日本人学生と一緒に受講するクラスです。小人数の授業で、コミュニケーション力やグループで活動するスキル等の向上が図れます。（ほとんどの科目が週1コマ、学期22.5時間）

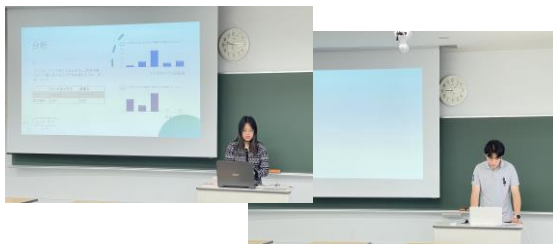
表3. 選択科目（国際共修科目）

秋冬学期	・日本人学生と学ぶ初心者合気道 ・日本人学生とつくるフットサルチーム ・日本語と英語で読む日本文学 ・敬語・日本語－メタバースで世界の言語と比較する－ ・操作する言語とメディア・リテラシー ・日本言語文化のふしぎ発見 ・出身国・地域を日本から見る ・多言語で読む源氏物語 ・歌に学ぶ日本の言葉と心 ・演劇的ワークショップ－展開編－ ・仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう ・ウィンターコースを企画する ・仏教と近代日本 ・グローバル・コミュニケーション ・異文化コミュニケーション学応用（パーソナルリーダーシップ） ・近代日本の歴史と思想 ・近代におけるオカルティズムの歴史 ・外から見た日本の社会

- ・日本人学生と学ぶ初心者合気道
- ・「お笑い」を通して日本文化を学ぶ
- ・世界と日本の課題をテーマとしたプロジェクト型学習で日本語コミュニケーション力を磨く
- ・おもしろい話とことば
- ・日本言語文化のふしぎ発見
- ・マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
- ・出身国・地域を日本から見る
- ・留学生と日本人学生の協働プロジェクト
- ・自己理解を深める
- ・留学生との日本文化やプロジェクトを通じた交流
- ・日本文化とコミュニケーション
- ・日本語の文法を外から見て考える
- ・映画に見る日本語と日本文化
- ・文学で学ぶ日本
- ・多文化理解実践
- ・演劇的ワークショップ-基礎編-
- ・グローバル・コミュニケーション
- ・異文化コミュニケーション学応用

iii) 専門科目

その他の全学教育科目と、主に文学部で開講されている一般学生向けの専門科目を履修します。



修了発表会の様子

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

多くの国際共修科目で文化体験を取り入れた授業を行なっています。例えば、「留学生と日本人学生の協働プロジェクト」は仙台市内の博物館や美術館を訪問します。「仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう」は仙台の商店街に実際に行き、フィールドワークをします。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

表3の科目はすべて日本人学生との共修です。

⑪ 指導体制

1. 日研担当教員

菅谷奈津恵 高度教養教育・学生支援機構 教授
(専門: 日本語教育)

2. 指導体制・学生の所属等

学生は文学部から上記機構に所属します。学生の指導は、上記教員を含む日本語教員と文学部教員が担当します。

※ 必要に応じて、日本人チューターが学習を手助けします。

■宿 舎

施設及び所在地

- ・国際交流会館三条第一会館 (仙台市青葉区)
- ・国際交流会館三条第二会館 (仙台市青葉区)
- ・国際交流会館東仙台会館 (仙台市宮城野区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条 (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅱ (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅲ (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス片平 (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス長町 (仙台市太白区)
- ・ユニバーシティ・ハウス青葉山 (仙台市青葉区)

【ウェブサイト】

<https://sup.bureau.tohoku.ac.jp/arrival/pre/fin-d-a-place/#1>

■修了生へのフォローアップ

プログラム終了後の参加者に本学教員が行うサポートは、基本的にはメール等の通信手段を用いたものとなりますが、担当教員が派遣元大学を直接訪問する形で参加者への事後の指導を行う機会を用意します。また、派遣元大学と本学との学術交流を促進すべく協議します。



■問合せ先

<担当部署>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
言語・文化教育センター
担当事務: 教育・学生支援部
留学生課国際教育係

住所: 〒 980-8576

宮城県仙台市青葉区川内41

TEL: +81-22-795-7817 (直通)

FAX: +81-22-795-7826

Email: sed2@grp.tohoku.ac.jp

<ウェブサイト>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構:

<https://www.ihe.tohoku.ac.jp>

東北大学:

<http://www.tohoku.ac.jp/>



秋田大学
Akita University

秋田大学 (秋田県)

秋田の豊かな自然と風土の中で日本語と日本文化を体験的に学ぶ

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

秋田大学は、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部（研究科を除く）からなる総合大学で、約5,000人の学生が学んでいます。

日本語・日本文化研修留学生を受け入れる教育文化学部の歴史は古く、今日まで120有余年にわたり教員養成と地方文化の拠点として幾多の人材を教育、学芸、文化の各方面に送り出してきました。



② 国際交流の実績

2022年10月1日現在、大学間協定を68大学（33か国・地域）と結び、留学生の受入れや日本人学生の派遣などを活発に行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数259人、日研生3人

2021年：留学生数221人、日研生1人

2020年：留学生数206人、日研生1人

（10月1日現在）

④ 地域の特徴

秋田県は、世界自然遺産である「白神山地」、日本一の深さを誇る湖「田沢湖」などがあり、自然の美しさに溢れた地域です。自然豊かな山に囲まれ、各シーズンを通して、登山や温泉などを楽しむことができます。

秋田市は秋田県の県庁所在地で、東北に位置し、人口は約30万人、東北の主要都市の一つです。

「かんとう」「なまはげ」「かまくら」などの伝統的な行事が数多く受け継がれているほか、小京都と呼ばれる「角館」など、史跡も数多く、そこでは人々のあたたかさに触れることができます。



秋田犬



田沢湖



夏：かんとう祭り



冬：かまくら祭り

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特徴

秋田大学日本語・日本文化研修プログラムは、日本の大学での勉学に必要な日本語能力を習得し、秋田地域独自の視点から日本文化を理解・研究するためのプログラムです。

●「日本語」授業

講義を理解してノートを取り、試験やレポートを書ける、ゼミなどで専門的な討論に参加し自分の意見を発表できる、交友を広げるための異文化コミュニケーション能力の技能習得等をめざします。

●「日本文化」授業

最大の特長は、全て日本人学生と共に受講することができる点です。秋田の文化を深く知ることをめざした「日本文化入門」などの学生参加型授業だけでなく、日本の近代文学や日本語教育学についての専門知識も学ぶことができます。

●「課題研究」

「日本語」および「日本文化」授業で学んだ成果と、秋田・日本での生活経験から得た問題意識を研究レポートとしてまとめる「課題研究」を必修としています。「課題研究」では少人数でじっくり考えながら研究テーマを決め、それぞれの受講生にあった研究方法を教員が助言します。

③ 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ JLPT : N2保持が望ましい
- ・ やや高度な文法・漢字 (1,000字程度) ・ 語彙 (6,000字程度) を習得し、日常生活についての会話がで、読み書きできる者が望ましい。
- ・ 外国の大学で日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍し、日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了した者が望ましい。

⑤ 達成目標

- ・ 日本語学習
日本語で学術的内容のレポートを作成し、その内容について口頭で発表でき、また質疑にも日本語で答えられる能力の習得を目指します。
これは、日本語能力試験1級 (N1) 合格相当にあたりますが、自分の問題意識を他者に伝えるための日本語能力習得を重視します。

・ 日本文化学習

一般的な日本文化理解にとどまることなく、日本人と合同の授業やさまざまな課外活動の経験、また秋田県での日常生活を通じ自らの課題を見つけ、それに基づいて、日本文化とは何か、秋田の文化とは何かを考察できるようになる地点をめざします。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

研修期間 : 2023年9月下旬 ~ 2024年8月下旬
(在籍期間 : 2023年10月1日 ~ 2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ~ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール (予定)

- 9月下旬 : 渡日
オリエンテーション
授業開始
- 10月 : 秋田の農家民泊体験
1月 : 留学生寮周辺町内会との交流事業
12月 : もちつき
2月 : スキー体験
5月 : 秋田の農家民泊体験
6月 : 留学生寮周辺町内会との交流事業
8月 : 修了セレモニー
8月下旬 : 帰国

⑨ コースの修了要件

- 修了要件 :
コース期間中、日本語・日本文化科目を各セメスター8コマ以上受講し、課題研究の論文を提出すること
- 修了証書の発行 : 期間修了時 (2024年8月予定)

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語と日本文化に関するクラスを中心に受講し、論文作成指導を受け、最終的には各自のテーマに基づき日本語で論文作成を行います。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目 (○90分×15回) ・ 内容

課題研究 I / II	日本語・日本文化科目での学習、および秋田での生活を通して発見したことに基づき論文を作成する。
-------------	--

II) 選択必修科目 (○90分×15~30回) ・ 内容

日本語4 - I / II	大学生活に必要な会話能力および漢字を身につける。
日本語4 - III/IV	大学生活に必要な読解能力を身につける。
日本語4 - V/VI	中級レベルの文法・語彙・表現の運用能力を総合的に高める。
日本語5 - I / II	論文やレポートなどの高度な書き方を習得する。
日本語5 - III/IV	日本語によるプレゼンテーション能力を身に付ける。
日本語5 - V/VI	大学の勉学や就職に必要な発表の技法を身に付け、口頭表現力を向上させる。
日本語5 - VII/VIII	上級レベルの文法・語彙・表現の運用能力を総合的に高める。
日本語5 - IX	日本語でさまざまなスタイルの文章を書く。
日本語5 - X	論文の読解の仕方を学ぶ。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

※選択科目 (○90分×15回)

多文化コミュニケーション入門 I / II	農家民泊を通して秋田のグリーンツーリズムについて理解する。
多文化間交流論 I / II	日本人学生と討論し、コミュニケーション力を向上させる。
社会教育課題研究	まちづくりに関し地域での現地調査を行い、研究成果を発表する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

※選択必修科目又は選択科目 (○90分×15回)

日本文化入門 I / II	日本や秋田の文化について学ぶ。
文化人類学概論	フィールドワークの歴史を中心に、入門的な文化人類学について学ぶ。
日本文学概論	近代日本文学史を学び、主な近代文学の作品を読む。
日本語教育学入門 I / II	日本語教育学の歴史的背景、日本語教育観、評価観の現状に関して考察する。
日本語文化論	日本語文法に潜む盲点について、助詞の問題を中心に、具体例に沿いながら、分析・検討する。
日本の近代文学	長編小説を10回に分けて精読する。
日本社会入門 I / II	秋田と日本の様々なマイノリティグループの現状を調査する。
スポーツ実習	サッカー、ハンドボール 柔道

他にも様々な授業が用意されています

⑪ 指導体制

高等教育グローバルセンター専任教員

浜田 典子 助教

E-mail: mhamada@gipc.akita-u.ac.jp

高等教育グローバルセンター専任教員

袁 曉犇 助教

E-mail: xbyuan@gipc.akita-u.ac.jp

■宿 舎

●留学生用宿舎等（単身用）

①留学生会館（27室）

②国際交流会館 A棟（10室）

③国際交流会館 B棟（18室）

※室数が限られているため、希望者全員が希望の宿舎に入居できるとは限りません。宿舎に入居できない場合は、民間アパート等を紹介します。

●過去3年間の日研生の宿舎入居状況

・2022年度 民間アパート2人

男子寮1人

・2021年度 留学生会館1人

・2020年度 留学生会館1人

●宿舎費（単身用・月）

①②5,900円 ③15,000円

（ガス・水道・電気などの光熱費は含まない）

●各個室の設備等

ユニットバス・トイレ、冷蔵庫、キッチン、ベッドなど。各部屋にエアコンも完備。

※ふとん、食器などは各自用意願います。

●通学時間：①徒歩15分 ②③徒歩5分

●参照ホームページ

<https://www.akita-u.ac.jp/honbu/global/ja/abroad/inbound/info.html>



留学生会館



国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

・研究レポートを日研生用のウェブサイトに掲載し、他の研究者から問い合わせがあった場合は、速やかに修了生に連絡して、研究の進展を支援しています。

・研究レポートを卒業論文作成へとつなげるために、帰国後も「課題研究」担当教員が卒業論文執筆援助を行います。

・Facebookを活用し情報提供を行います。

・キャリアパスの例

1) 母国の出身大学に就職し、日本語教育学の仕事に従事

2) 日本の大学院に進学

3) 日本企業に就職

4) 母国の日本国大使館に就職

■問合せ先

<担当部署>

秋田大学国際課留学生交流・支援担当

住所：〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1番1号

TEL：+81-18-889-2258（直通）

FAX：+81-18-889-3012

Email: ryugaku@jimu.akita-u.ac.jp

<ウェブサイト>

秋田大学国際交流：

www.akita-u.ac.jp/honbu/global/ja/

秋田大学：

www.akita-u.ac.jp/



もちつき



スキー体験



農家民泊



山形大学 (山形県)

地域の人や風俗習慣等、山形文化の魅力にどっぷりはまりましょう

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

山形大学は1949年に創設されたが、その歴史は、19世紀、1878年の山形師範学校創立に遡る。今日の山形大学は、6学部、7研究科、1教育機構から成る。教員約850人、総学生数約9,000人を有し、山形県内に設置されている主たる総合大学として、研究・教育の中心となる役割を果たしている。その教育理念は、総合大学としての特徴を活かし、自然科学、人文・社会科学が連携した専門教育と幅広い教養教育を行うとともに、地域社会に根ざし国内はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することである。また、優れた研究成果を生み出すことにより、「自然と人間との共生」という目標を実現し、社会に貢献することを目指している。

② 国際交流の実績

海外機関との交流協定数：39カ国・地域177機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数295人、日研生 1人

2021年：留学生数246人、日研生 0人

2020年：留学生数219人、日研生 1人

④ 地域の特徴

山形県は、南東北に位置している。四季に恵まれ、自然を身近に感じることができる。県内全域にわたって温泉を楽しむことができ、温かい人々とふれあうことができる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な言語能力を伸ばすことを目指して科目が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。このプログラムでは、口頭発表をし、修了論文を書くことを目指している。

③ 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
- 2) 日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。



さくらんぼ



べにばな

⑤ 達成目標

- ・山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。
- ・専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養う。
- ・自ら行う研究プロジェクトで、修了論文を作成し、報告会で発表することができる運用力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年10月上旬 ～ 2024年9月下旬

（在籍期間：2023年10月1日～2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月



べにばな染体験



⑧ 研修・年間スケジュール

日本の家庭訪問、見学旅行、地元の祭り(例:花笠まつり)などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。そのほか、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

9月下旬: 渡日
9月: オリエンテーション
10月: 留学生研修旅行
11月: 留学生懇談会
1月: スピーチ発表会
4月: お花見
8月: 留学生日本語発表会
花笠まつり



研修旅行
(羽黒山と山伏)

⑨ コースの修了要件

「⑩研修・コース科目の概要・特色」の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。また、成績証明書が発行される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は前期(4~8月)、後期(10~2月)各15週開講される。Iは、日研生のための必修科目である。選択科目の授業は、I、II、IIIの三つの種類がある。Iは留学生向け日本語科目で、II、IIIは日本人学生とともに学ぶ科目である。このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要で、そのうち6科目以上は、I、IIの分野から選択するものとする。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目(各15週)

研究プロジェクトI: [後期]

研究プロジェクトII: [前期]

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

II) 選択科目

I、II、IIIの各科目は、すべて選択科目である。I aの日本語中級1「総合」、日本語中級2「総合」はいずれも週4コマであるが、他の授業は全て週1コマである。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

IIの科目では、地域の人々と交流する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

I 日本語科目

a. 基盤共通教育日本語科目 [前期・後期]

日本語中級1「総合」	中級前半
日本語中級1「読む」	中級前半
日本語中級1「書く」	中級前半
漢字3	中級漢字
日本語中級2「総合」	中級後半
日本語中級2「読む」	中級後半
日本語中級2「書く」	中級後半
漢字4	中級漢字
日本語上級1「話す」	上級前半
日本語上級2「話す」	上級後半
日本語上級1a「書く」	上級前半
日本語上級1b「書く」	上級前半
日本語上級2a「書く」	上級後半
日本語上級2b「書く」	上級後半

日研生は主に日本語上級から選択して履修します。「話す」では、大学で必要な会話の練習、発表やディスカッションで必要な日本語の練習を行います。「書く」では、レポートや論文など、大学の学習・研究活動に必要な文章を書く練習を行います。



花笠まつり

b. 人文社会科学部専門日本語科目

日本語 a N1対策・スピーチ [前期]

日本語 b 読解・聴解・作文 [後期]

II 日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門 [前期・後期]

地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。

多文化共生を考える [後期]

授業内での異文化交流体験を通して、異なる言語や文化的背景を持つ他者を知り、多様な背景を持つ他者と共生していくために必要となる態度とコミュニケーションスキルを身につける。

フィールドワーク共生の森もがみ [前期]

山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。

異文化理解演習 [前期]

通過儀礼を通して日本文化・社会及び台湾文化・社会を理解するようになる。そして、異なる文化的な背景を持つ者(日本人学生、留学生)同士で議論することによって異文化理解の知識を身に付ける。

III 人文・社会科学科目

a. 人文社会科学部開講科目

日本語学特殊講義 b [後期]

日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。

日本語学概論 [前期]

日本語の歴史について解説する。

日本語文法概論 [後期]

現代日本語の記述的文法を解説する。



山寺
(奥の細道)

日本語文法特殊講義 a〔前期〕

現代日本語の複文の意味・文法的性質について解説する。

日本語学演習 a〔前期〕

日本語の歴史分野に関する文献を読み進める。

日本語教育学概論〔前期〕

日本語教師になるために必要な基礎的な知識を学ぶ。

日本語教育学基礎演習 a〔前期〕

典型的な日本語初級の授業の流れを理解し、教室活動をデザインする。模擬授業を行い互いに評価・分析する。

日本語教育学特殊講義 b〔後期〕

日本語教師になるために必要な要件の一つである、日本語教育能力検定試験の過去問を解き、練習及び解説を行うことで、日本語及び日本語教育学の基礎知識を固める。

映像学概論〔前期〕

映画の分析論。日本映画の分析を含む。

日本古代中世文学特殊講義 b〔後期〕

和歌・連歌の形態を学び、歌合・連歌会を体験することで短詩の役割を理解する。

日本近現代文学特殊講義 b〔後期〕

明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。

地誌学〔後期〕

地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。

比較文化・文化交流史概論〔後期〕

近現代の日米関係を軸として、比較と交流史の視点から、日本文化の変容について論じる。

日本歴史文化論（日本学入門）〔前期〕

日本と東アジアの歴史的交流とその意義について基本的な理解を深める。



テーブルトップイベント

b. 地域教育文化学部開講科目

国語学概論 I〔前期〕

音声・音韻、書記、語彙、方言を中心に日本語の概要を解説する。

国語学概論 II〔後期〕

文法、敬語、日本語の歴史を中心に日本語の概要を解説する。

c. 基盤共通教育開講科目

特定の分野に偏らず、幅広い学問分野を学ぶことができる。自分で関心がある科目を選択し、履修する。〔前期・後期〕

⑪ 指導体制

1) プログラム実施教員

学士課程基盤教育機構所属の教員が実施する。

内海由美子 教授 日本語教育

尤銘煌 教授 社会学

今泉智子 准教授 日本語教育

2) 指導教員

人文社会科学部、地域教育文化学部、または学士課程基盤教育機構教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

■宿 舎

短期留学生は60名まで山形大学山形国際交流会館などの宿舎に入居できる。宿舎は、大学へ自転車などで通学できる場所にある。（例：山形国際交流会館（香澄町）単身室）

1) 宿舎費（1ヶ月）+共益費（1ヶ月）+保証積立金 5,900円 + 4,000円 + 30,000円

2) 宿舎設備・備品（単身室の場合）

ベッド、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、食器戸棚、本棚、洋服ダンス、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ

小白川キャンパス



山形国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

これまでの修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生は、ほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積み始めている。一人は、山形大学で修士号を取得後、国際交流の仕事に携わりたいと山形大学職員に応募し、採用された。その仕事を経て、現在は、中国でトヨタ自動車に勤めている。また、別の一人は、フィンランドで修士課程在学中に自ら翻訳会社を立ち上げ、翻訳に携わった本について、本学で講演会を行った。現在通訳としても活躍している。シンガポールの大学を卒業後、日本JTで働く経験を積んだ修了生は、本学の留学生懇談会で後輩たちに経験を語り、交流を深めた。



■問合せ先

<担当部署>

山形大学エンrollment・マネジメント部国際交流課

住所：〒990-8560

山形県山形市小白川町一丁目4-12

TEL： +81-23-628-4017（直通）

FAX： +81-23-628-4849

Email： yu-rngkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

山形大学：

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/>



茨城大学 (茨城県)

日本語・日本文化の体験的学修

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

(1) 特色と歴史

本学は昭和24年新制大学としてスタートし、現在は人文社会科・教育・理・工・農の5学部と人文社会科学・教育学・理工学・農学研究科の4大学院を有する総合大学として発展している。教育の伝統は、少人数によるゼミナール形式授業の重視、現代的・地域的課題に取り組む実学研究の重視等である。

(2) 教員及び学生数

2022年現在の教員数は505名、正規生の学生数は、学部生6,764名、大学院生は1,216名である。

② 国際交流の実績

茨城大学は、海外23ヶ国の74大学等と交流協定を結んでおり、外国人研究者と留学生を多数受け入れている。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数202人、日研生0人

2021年：留学生数268人、日研生1人

2020年：留学生数284人、日研生0人

④ 地域の特徴

東京から北東100kmに位置する水戸市は、茨城県の政治・経済・文化の中心地として古くから発展してきた都市である。市の中心地には、日本3名園のひとつ、徳川家ゆかりの「偕楽園」があり、春になると梅を楽しむ人々で賑わう。広大な緑地や千波湖は市民の憩いの場として親しまれている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

主に人文社会科学部で開講される授業の中から学生の興味や専攻に合わせて授業を選択し、専門教育を通じて日本事情や日本文化に関する理解を深めることを目的とする。

併せて、学生の日本語能力に応じて「学術日本語」や「日本語研修コース」を受講し、大学生活に必要な日本語能力を高める。

② 研修・コースの特色

研修生は留学生のためのクラス及び日本人学生と同一のクラスで学び、更に日本社会で生活することにより、日本語・日本文化を体験的に学ぶことができる。コース形態は下記のとおりである。

・日本語・日本事情：

グローバル教育センター・基盤教育科目で開講される主に留学生のための日本語・日本理解のための授業

・日本文化：

日本人学生と日本について学ぶ基盤教育科目

・日本関連科目：

人文社会科学部で開講される授業

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

来日前に日本語の学習歴を有し、日本語で行われる授業の参加に必要な日本語能力を備えていること。（日本語能力試験N2以上）

⑤ 達成目標

日本語・日本文化を学びながら、同世代の日本人学生と積極的にコミュニケーションを図ることで、より一層日本への関心や興味を持ち、理解を深めていく事を達成目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年9月21日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日（2021年は9月21日）

オリエンテーション

10月：留学生支援団体及び地域住民等との交流会、国際交流パーティー

2月：学外研修

5月：学外研修

7月：全学の留学生とともに、関東または東北方面への国際交流研修

未定：日本文化体験（茶道、華道）

未定：中学・高校生との交流

8月末：修了式

8月末：帰国（2022年は8月31日）



⑨ コースの修了要件

a. 必修科目

日本語研修コースで開講される所定の授業を履修する。プレイスメントテストの結果により、指定される必修授業を履修すること。

b. 選択科目

以下の授業科目の中から、自身の興味・関心と日本語力に応じて科目を選択し履修する。

- ・ 基盤教育科目（学術日本語を含む）
- ・ 人文社会科学部専門科目

a, bの科目群から計32単位相当の単位を取得することが修了要件となる。なお、成績証明書の発行は可。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修生のレベルに対応する日本語授業の履修を中心とし、選択科目として日本語・日本文化に関連する科目を履修する。

授業は原則として、前期(4月～8月上旬)と後期(9月下旬～2月上旬)各16週（内1週はテスト）開講される。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（○コマ数、時間数）・内容

グローバル教育センター開講科目

レベル4:総合（4単位相当）：文法・文型授業

レベル4:口頭表現（2単位相当）：発表授業

レベル4:漢字（2単位相当）：上級漢字

レベル5:総合（2単位相当）：文法・文型

日本事情（2単位相当）：日本文化・習慣

日本体験学習（2単位相当）：地域交流・見学

・プレイスメントテストの結果により指定される必修科目を受講すること。

・これらのクラスは茨城大学の「単位」ではないため、単位相当としている。



II) 選択科目

a. 基盤教育科目

「学術日本語I」（1単位）：学術的な日本語の基礎

「学術日本語II」（1単位）：学術的な日本語の応用

b. 人文社会科学部及び全学教育機構で開講される日本語・日本文化に関連する科目及び日本を理解する上で役立つ他の科目の中から、留学生が指導教員と相談の上、授業科目を選択し受講する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

前述2)の必須科目の下記科目が含まれる。

・ 日本体験学習

また、選択科目として下記科目等の履修が可能。

・ 5学部混合地域PBL：

地域課題の問題解決を主目的として、グループ学習やプロジェクトを遂行しながら行う学習を学部横断で取り組むもの。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
前述2)の必須科目以外はほぼすべて日本人学生との共修である。

⑪ 指導体制

当該の留学生の関心領域に近い専門の教員が指導教員となり、グローバル教育センター教員が協力して、日本文化及び関連分野についての勉強が進むように指導する。

また、国際交流等に関心の高い日本人学生をチューターとして配置し、勉強面のみならず、生活面に渡るサポート体制を組む。



■ 宿 舎

国際交流会館

○ 宿舎数

単身用：（旧棟）38室 （新棟）35室

夫婦用：2室 世帯用：2室

○ 寄宿料

（月額）※前納：無し

単身用：（旧棟）5,900円（新棟）20,400円

夫婦用・世帯用：14,200円

○ 宿舎周辺の生活情報、通学時間

国際交流会館から本学までは徒歩15分位で、入居期間は1年以内である。



■ 修了生へのフォローアップ

修了後の研究に対し、要請に応じてEメール等を通じて協力助言する。

■ 問合せ先

<担当部署>

茨城大学学務部国際交流課

住所：〒310-8512

茨城県水戸市文京2-1-1

TEL：+81-29-228-8056（直通）

FAX：+81-29-228-8594

Email：StudentExchange01@ml.ibaraki.ac.jp

<ウェブサイト>

茨城大学グローバル教育センター：

<http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学：

<https://www.ibaraki.ac.jp/>



宇都宮大学 (栃木県)

世界遺産の日光、最先端テクノポリス、豊かな自然の近くでの研修

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

宇都宮大学は栃木県の中央に位置する宇都宮市にある大学で、5つの学部をはじめ、従来の4つの研究科がひとつになった大学院（地域創生科学研究科）および教職大学院からなる総合大学である。大きな大学ではないので、大学生活の様々な面で学生に対してきめ細やかに対応しており、学部や研究科間で連携した教育・研究活動も行いやすい。

●教員数と学生数（2022年5月1日現在）

教員数： 330 名

学生数： 4,922 名

（学部 3,977名・大学院 945名）

●学部と研究科

＜地域デザイン科学部＞

2016年4月に新たに発足。地域の魅力を引き出し、より良い地域を形成するために必要な、幅広い知識と専門技術を総合的に学ぶ。

＜国際学部＞

国際的な視野から社会と文化の総合的な教育研究を行い、世界で活躍できる人材の育成を行う。海外からの留学生、海外に留学する学生がともに多い。

＜共同教育学部＞

教員養成に長い歴史を持ち、学校教育をはじめ、多方面で活躍できる人材を養成している。

＜工学部＞

自然環境及び人工環境と人間の共生をめざした先端的研究を行っている。

＜農学部＞

宇都宮高等農林専門学校からの長い伝統を持つ一方、バイオテクノロジーや国際協力などの先端的な研究分野で大きな成果をあげている。

＜地域創生科学研究科＞

従来の国際学研究科、教育学研究科、工学研究科および農学研究科が再編され、2019年4月に発足。持続可能で豊かな地域社会の創生を理念に、博士前期課程に社会デザイン科学専攻と工農総合科学専攻、博士後期課程に先端融合科学専攻を設置している。

＜教職大学院＞

現職教員を主な対象に、専門性のより高い教員養成を目的とした専門職大学院である。

② 国際交流の実績

留学生の数：234名（23 か国・地域）

大学間・部局間交流協定校の数：85大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数136人、日研生4人

2021年：留学生数140人、日研生4人

2020年：留学生数149人、日研生3人

④ 地域の特色

本学のある宇都宮市は東京の北100km（新幹線で約50分）に位置している。宇都宮市は人口約52万人で、東には鬼怒川（キヌガワ）、北には那須山地、西には世界遺産の観光地・日光など、美しい環境に恵まれている。日本最古の大学、足利（アシカガ）学校に代表される学問的伝統や、日本で一二

を争うイチゴなど農産物の開発、テクノポリスを構成する工業技術など、アカデミズム・先端的科学技術の発信地となっている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースは、宇都宮大学留学生・国際交流センターが全学の協力を得て行う研修プログラムで、以下の2つの研修を行う。

【1. 日本の文化や社会についての研究】

研究テーマを設定し、そのテーマに相応しい指導教員の下に研究を行い、その成果を研修論文としてまとめ、発表し、提出する。

【2. 日本語能力の向上】

上記の研究と並行して、日本語の授業や日本語で行われる大学の授業を受講し、自らの日本語能力の向上を図る。

③ 受入定員

10名（大使館推薦 5名、大学推薦 5名）

※年度により、これより少なくなる場合もある。



④ 受講希望者の資格、条件等

以下の(1)と(2)をとともに満たすことが必要である。

(1) 専攻分野

派遣元大学において日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。

(2) 日本語能力

中上級レベル(日本語能力試験N2合格程度)以上の日本語能力を持っていること。

⑤ 達成目標

本研修留学生は、入学の翌年8月のプログラム修了時点で、日本語能力検定試験のN1レベル相当の日本語能力を習得し、学部卒の卒業論文に相当する研修論文を執筆することを目標とする。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間: 2023年9月25日 ~ 2024年8月31日

(在籍期間: 2023年10月1日~2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ~ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月最終週: 渡日(2022年は9月26日~30日)

10月: オリエンテーション

10月新規来日留学生歓迎パーティー

11月: 学外研修

12月: 地域との交流会

2~3月: 自主研修(現地調査など)

4月: 4月新規来日留学生歓迎パーティー

7月: セミナーの集い(栃木県内の留学生対象)

8月上旬: 研修論文発表会

8月下旬: 帰国(2022年は8月24日~31日)

※上記は、通常時のスケジュールです。新型コロナウイルス感染症の影響等により変更になる場合もあります。

⑨ コースの修了要件

以下(1)~(3)を全て満たすことを修了要件とする。コース修了者には成績証明書に加え、修了証書を与える。

(1) 必須(必修)科目4科目(演習2科目を含む)を履修すること

(2) 選択科目12科目(本プログラムに関連した内容の科目)を履修すること

(3) 研修論文を執筆し、期日までに提出するとともに、研修論文の内容を「日研生研修論文発表会」で発表すること

※なお、研修終了日より以前に早期帰国を希望する場合には、事前相談に基づき事情を判断し、所定の手続を踏むことを条件に、認める場合がある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

・開講部局は留学生・国際交流センター、基盤教育(全学共通の基礎科目)、各学部である。

・授業時間は1回(1コマ)90分、全科目15回である。

・必須(必修)科目を4科目、選択科目を12科目履修する。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

(留学生・国際交流センター開講科目、各2単位)

・日本語・日本文化Ⅰ…日本語と日本文化について日本語で学ぶ。

・日本語・日本文化Ⅱ…日本語と日本文化について日本語で学ぶ。

・日研生特別研究Ⅰ…各自の修了研究の準備を進めるとともに、学外研修などを通じて、日本社会や日本文化に触れる機会を設ける。

・日研生特別研究Ⅱ…定期的に調査研究の進捗状況を報告し合い、その内容について互いに検討し、研修論文の完成を目指す。

本研修留学生は、日本の文化や社会、あるいは日本語に関わるテーマについて、1年間にわたる調査・研究を行い、その成果を日本語でまとめた研修論文(12,000字以上)を執筆する。また「研修論文発表会」でその概要について口頭発表(約10分)を行う。

II) 選択科目

・選択科目として、基盤教育、国際学部、共同教育学部、留学生・国際交流センター開講科目から、12科目の履修が必要である。以下に挙げるのは履修を推薦する科目の例であるが、日本語能力と各自の研究テーマに応じて他の授業科目を選択できる。どの科目を履修するかについては、各学期の初めに、担当教員や指導教員と相談して決定する。

・本学の授業科目(留学生・国際交流センター開講科目を除く。)の2022年度の時間割とシラバスは、本学ウェブサイト(次頁問合せ先参照)で確認することができる。

○ 選択科目Ⅰ: 上級レベル日本語科目の例

(各1単位)

「日本語アカデミック・リーディングⅡ」

「日本語アカデミック・コミュニケーション」

「科学技術系のための専門日本語」

「人文社会系のための専門日本語」

○ 選択科目Ⅱ: 日本文化関連科目の例

(各2単位)

「日本語論」「日本語史」「言語比較論」

「日本文化論」「日本文学概説A」

「多言語コミュニケーション学A」

「多言語コミュニケーション学B」

「多文化共生コアB(異文化間コミュニケーション)」

「Japanese Communication Arts」

「Globalization and Society」

「グローバル教育論」

「移民と多文化教育」

※年度によって開講科目が変更になる場合がある。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・栃木県内の名所・旧跡などを見学する学外研修や、留学生を対象とした地域交流団体との交流行事等を予定する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・必須科目以外の選択科目として、日本人学生などが履修する正規科目を履修することが可能である。これらの科目を履修することで、日本人学生と共修する機会を得ることができる。

⑪ 指導体制

本コース研修留学生は本学留学生・国際交流センターに所属し、プログラム担当教員と研修論文の指導教員の連携による指導を受ける。

○プログラム担当教員：

本コースのコーディネーターとして全学的な協力の下に研修留学生が充実した研修を行えるよう指導教員等と連携をとりながら指導・助言を行う。

- ・湯本 浩之（留学生・国際交流センター教授）
専門：国際教育論・国際開発論・市民組織論
- ・飯塚 明子（留学生・国際交流センター准教授）
専門：国際協力・コミュニティ防災

○指導教員：

研修留学生の研修テーマに応じて専門分野の研究指導を行う。指導教員は、来学後に研究テーマに基づいて全学の教員の中から決定される。

■宿 舎

原則として、日本語・日本文化研修留学生は、本学留学生寮（国際交流会館）の単身室に入居する。なお、国際交流会館に空室がない場合は、自分で民間アパートを契約し、入居することもある。

○国際交流会館（単身室）

【家賃】月額 6,500円

【原状回復費】31,900円（※1年間分）

【設備】

A棟：ベッド、机、椅子、書棚、エアコン、トイレ、ユニットバス（※キッチンはないため、共用のキッチンを利用する）

C棟：ベッド、机、椅子、書棚、エアコン、トイレ、キッチン（※ユニットバスはないため、共用のシャワー室を利用する）

※A棟・C棟のどちらに入居することになるかは大学の判断により決定されます。学生が選ぶことはできません。

○民間アパートに入居する場合、入居当初にかかる諸費用の例

- ・居室料（単身用・月額） 30,000円前後
- ・敷金（居室料の1ヶ月分）
- ・礼金（居室料の1ヶ月分）
- ・手数料（居室料の1ヶ月分）
- ・ガス開栓等の手数料 15,000円前後
- ・保険料 4,500円～9,000円 前後

合計 10万円 ～15万円前後

※エアコンが設置されたアパートは比較的多い。
その他は来日後、各自で購入等の必要がある。



■修了生へのフォローアップ

研修修了後も、希望者には進路や研究内容等について、メールなどにより、随時相談・助言等を行っている。

○過去の修了生の進路の例：

- ・本学大学院進学
- ・本学以外の日本の大学院進学
- ・母国での通訳
- ・母国での大学教員
- ・日系企業への就職



■問合せ先

<担当部署>

宇都宮大学学生支援課留学生・国際交流室

住所：〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

TEL： +81-28-649-8166（直通）

FAX： +81-28-649-5117

Email： ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

<ウェブサイト>

宇都宮大学Webサイト：

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/>

宇都宮大学留学生・国際交流センターWebサイト：

<https://intl.utsunomiya-u.ac.jp/>



群馬大学 (群馬県)

日本語・日本文化、教育学、社会情報学を学び、地域社会の視点から日本の文化を考察する。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

(1) 特色と歴史

群馬大学は1949年に設立。東京から北西に約100 kmに位置し、共同教育学部、社会情報学部（情報学部）、医学部、理工学部、生体調節研究所、附属図書館、医学部附属病院、国際センター等の各部局で構成している。

共同教育学部は、グローバルに物事をとらえながら、未来社会を支える人間を育成するために、人間の発達と成長を主な対象として教育の目的、方法、および内容などについて理論的・実践的な教育・研究を進めている。共同教育学部には、教員養成を主たる目的とする課程があり、4系・13専攻に分かれながら、深い専門性と実践的な指導方法を身に付ける。

社会情報学部では、社会と人間を「情報」という視点から捉えた「社会情報学」を学ぶ。社会情報学の目標は、人間のコミュニケーションを取り巻いている社会のシステムを分析し、今後の課題を明らかにしていくことである。そこで、情報科学と人文・社会科学を融合し、学際的、国際的な教育・研究を進めている。

国際センターでは、留学生のための日本語・日本事情科目を開講し、学習相談を実施している。また日本研究のため「日本美術演習」「邦楽器演習」という実践科目も履修でき、総合的に日本理解ができるプログラムが用意されている。

(2) 教員・学生数等（2022年5月1日現在）

教員数：900人

学生数：学部 5,048人、大学院 1,234人

② 国際交流の実績

留学生在籍数：223人（15カ国 1地域）

（2022年5月1日現在）

海外の大学との交流協定：123件（29カ国 1地域）

（2021年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数223人、日研生4人

2021年：留学生数233人、日研生5人

2020年：留学生数256人、日研生4人

④ 地域の特徴

関東平野の北に位置し、美しい山々に囲まれ、温泉も多く、1年を通じて四季折々の自然豊かな景色・産物が楽しめ、東京近郊から電車で約2時間ほどである。

一方、外国人が急増し、その多文化共生のため様々な活動を群馬大学が実施し重要な役割を果たしている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本学では日本語・日本文化研修プログラムを通称「Jプログラム」として、日本語の能力や技能を高めながら、日本を研究対象とする諸研究を行うのに必要な知識を身につけることを目指す。プログラム期間中に行われる諸活動に参加することで、日本語や日本文化、日本社会についての理解を深めることができる。

本人の希望する専門分野により、共同教育学部又は社会情報学部のいずれかの研究室に所属し、更なる日本語能力の向上を図りつつ、専門性をより高めることを目的としている。

また、例年、当プログラムが行われる荒牧キャンパスには多数の交換留学生在籍しており（2022年度は5協定校から9名）、日本語能力試験N1級レベルや大学院レベルの交換留学生在籍もおり、短期留学生在籍が多様なレベルで存在している。

そのため、交換留学生在籍のための日本の伝統文化を学ぶプログラムも用意されており、日本画、邦楽（箏、三絃）の実技を専門家から学ぶ機会もあり、日本文化をより深く学ぶことが出来る。

③ 受入定員

7名（大使館推薦3名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 一般的な会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目の内容を理解する者。日本語能力試験N2級以上相当が望ましい。

(2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者。

⑤ 達成目標

修了時に、日本語で研究論文を作成し、自分の研究について口頭発表や質疑応答ができるようになること。



2019-2020年度 日研生、交換留学生

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月下旬 ～ 2024年9月下旬
（2023年10月1日 ～ 2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 年間行事・年間スケジュール

9月下旬 渡日（予定）
10月 新入学留学生受入式
オリエンテーション
留学生相談会
チューターオリエンテーション
留学生特別健康診断
インターナショナルキャンプ
12月 各学部留学生懇談会
1月 伝統文化実践科目邦楽演奏会
3月 茶道、書道、華道の伝統文化体験
4月 全学健康診断
8月 Jプログラム研究報告会
伝統文化実践科目邦楽演奏会
9月 Jプログラム研究論文提出
9月下旬 帰国

邦楽器演奏



⑨ コースの修了要件

コースの修了要件は以下のとおり。必修科目60時間、選択科目300時間以上を受講しなければならない。コースの期間の終わりに、日本語による論文発表を行い、口頭試問の上、成績優秀な者については修了証書を発行する。

成績判定にあたっては、学部指導教員と国際センター教員による修了判定委員会での総合的に判断される。

授業の種類		第1期(10-3月)	第2期(4-9月)
日本語	選択 10コマ	4コマ（120時間）または8コマ（240時間）	
学部・教養教育科目		6コマ（180時間）または2コマ（60時間）	
Jプログラム日本入門 特別講義*1	必修 2コマ		1コマ（30時間）
課題研究（個別指導）*2			1コマ（30時間）

*1：「Jプログラム日本入門特別講義」：「日本における研究」をテーマに、学内教員によるオムニバスの特別授業（協力教員14名/半期）

*2：課題研究は指導教員による論文指導である。第2期の終わりにプレゼンテーションをして、論文を提出しなければならない。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

Jプログラムは、日本語の能力や技能を高めるだけでなく、日本を研究対象とした諸研究を行うのに必要な知識や実社会でも役立つ日本語・日本文化に関するさまざまな知識を身につけることを目指す。また、期間中に行われる諸活動に参加することによって、日本語、日本文化、日本社会についての理解を深めることができる。修了時に、日本語で研究論文を作成し、自分の研究について口頭発表や質疑応答ができるようになることがこのプログラムの目標である。

2) 研修・コース開設科目

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。日本語、日本事情、伝統文化実践科目、学部・教養科目から履修する。

I) 必須科目（2コマ、60時間）「Jプログラム日本入門特別講義」と「課題研究（個別指導）」

II) 選択科目（10コマ、300時間）

II-1) 教養教育「日本語・日本事情科目」（以下の科目から選択する）

科目名	学期	時間数	授業内容
日本語口頭表現	秋・春	60	聴解・会話、発表演習
日本語総合	秋	30	正確な日本語の運用を目指す
日本語読解	秋・春	60	専門書読解、要約・作文練習
日本語文章作成	秋・春	60	レポート・論文作成
日本語作文	秋・春	60	文章表現、レポート作成
日本語聴解	春	30	聴解・会話、発表演習
日本事情A	春	30	日本文化論講座
日本事情B	秋	30	日本の政治・社会
邦楽器演奏	秋・春	各60	箏・三絃演奏
日本美術演習	秋・春	各60	日本画演習

II-2) 共同教育学部と社会情報学部で開設される専門科目の授業、教養科目授業から選択する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
特になし

<見学>

年に1回、留学生と日本人学生合同で、近隣県の研修旅行(1泊2日)を予定している。その他、日本美術演習の一環で、東京や千葉、県内の美術館等への日帰り見学を定期的に行う。



<地域交流>

群馬県内の小学校や中学校から国際理解講座の授業への留学生派遣依頼に応え、Jプログラムの学生が積極的に訪問している。



また、前橋市国際交流協会が実施するホスティングプログラムへの参加、講師としてイベントへの派遣など、地域住民との交流も活発に行っている。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

1年生対象の教養教育科目「日本事情」では文理さまざまな日本人学生とグループワークを行う。また所属する学部の演習等で日本人学生と議論できる。

⑪ 指導体制

(1) コーディネーター：野田岳人教授

(2) 指導体制：

学部の指導教員と国際センターの教員が、研究指導及び修了研究のための指導を行う。その他、国際センター教員(生活相談を含む)やチューターの日本人学生が日本語学習や日常生活の支援する。

■宿 舎

キャンパスから4km離れたところに単身用23室を有する群馬大学国際交流会館があるが、状況によっては満室の可能性もある。入居できない場合は、原則日研生のために、キャンパスに近い民間アパートを準備する。おおよそ30,000円/月程。その他、公共料金(電気、ガス、

水道、インターネット、携帯電話)が10,000~20,000円/月程必要となる。同時期に来日する交換留学生用のアパートと同様の扱いを行う。

■修了生へのフォローアップ

Jプログラム修了生のデータベースを作成する。また、日本への大学院進学などについて、助言・相談を実施する。



Jプログラム研究報告会

■問合せ先

<担当部署>

群馬大学国際課

住所 〒371-8510

群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL +81-27-220-7637 (直通)

FAX +81-27-220-7630

E-mail g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp

<担当教員>

国際センター教授 野田 岳人

E-MAIL nodat@gunma-u.ac.jp

<ウェブサイト>

群馬大学ホームページ

<https://www.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学国際センターホームページ

<https://www.guic.gunma-u.ac.jp/>



インターナショナルキャンプ





埼玉大学 (埼玉県)

多様な日本語・日本文化科目を提供します

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

埼玉大学は、東京圏に位置した総合大学としての使命を果たしている。本学は、旧制の浦和高等学校、埼玉師範学校ほかを母体として1949年に創設されてから70余年が経過し、教育・研究の場の整備を着実に進めており、地域の学術交流の拠点に成長しつつある。近年の留学生数は550人を超え、一段と国際交流が活発化している。

また、海外からの研究者の受入れや本学教員の国際的研究活動も増加している。本大学は5つの学部とさらに高度な教育・研究を推進するための3つの大学院研究科を設置しており、修士課程(博士前期課程)、博士課程(博士後期課程)が設置され、充実した大学院教育・研究が行える。特に大学院理工学研究科では国立研究開発法人理化学研究所と協力して博士後期課程を組織し、他大学に先駆けた新しい形の大学院教育を展開している。

日本語・日本文化科目に関する講義を多く開講している教養学部は、人文と社会にわたる多様な専門分野を含み、それぞれの専門の研究を基盤としている。同時に各分野を有機的に関連づける総合的研究並びに各分野間の境界領域を探索する学際的研究を特に重視しているのが特色である。専門性と総合・学際性の調和を図ることで、現代に相応しい教養、柔軟な思考力、総合的判断力を備えた人材を養成することが教養学部の基本方針である。

日本語教育センターは埼玉大学の外国人留学生を対象に日本語を学習する機会を提供している。

② 国際交流の実績

2022年5月1日現在、125件の大学間学術交流協定と49件の部局間学術交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年：留学生数556人、日研生 5人
2021年：留学生数579人、日研生 4人
2020年：留学生数570人、日研生 3人

④ 地域の特徴

埼玉県は、関東平野の中央に位置する内陸県で人口はおおよそ730万人、東京に隣接し、電車で約1時間の位置にある。東日本の交通の要衝であり、首都機能の一翼を担う県として大きく躍進している。埼玉大学があるさいたま市は、東京から北方へ20km、人口133万人を擁する県都、江戸時代からの伝統を受け継ぐ、文教・文化都市として発展しており、また、住みやすい住宅都市とも言われる程交通機関がよく整備され、緑豊かな環境とあいまってスポーツの振興も盛んに行われている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行う。

② 研修・コースの特色

10月～3月(第1期)は日本語を中心に学び、4月～8月(第2期)は、日本語学習を継続しながら、学生の専門領域に当たる日本文化の知識を高め、日本と母国の架け橋になる国際人を育成するためのプログラムである。

③ 受入定員

9名(大使館推薦 6名、大学推薦 3名)

<埼玉スタジアム>



④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、次の1)及び2)を満たす者とする。

1) 日本語能力を有する者

一般的な事柄について会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目を聞き取りながら、内容を理解する能力を有する者。
(公財)日本国際教育支援協会と(独法)国際交流基金が実施する日本語能力試験N2以上に合格していることが望ましい。

2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者又は、他の専攻分野に在学しつつ日本語・日本文化等に関する分野を学習している者。

⑤ 達成目標

1) 日本語と日本文化に関する技能や教養、自らの専門分野の知識を高めながら、日本語で情報収集ができ、日本語による高度な口頭発表や文章作成が行えるようになること。

2) 将来、母国における日本関係のエキスパートになるための基盤を養うこと。

3) 首都圏にある都市「さいたま」の文化や特色を学ぶこと。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間 2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
(在籍期間 2023年10月1日 ～ 2024年8月31日)

埼玉大学では早期修了の制度はない。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月



⑧ 研修・年間スケジュール

(第1期: 10月～3月 / 第2期: 4月～8月)

9月下旬: 渡日、各オリエンテーション

11月下旬: 埼玉大学祭「むつめ祭」

12月下旬～1月上旬: 冬季休業

2月中旬～3月: 春季休業

8月下旬: 修了式、帰国

・ホストファミリー制度
(ホームステイ・ホームビジット)
※時期は年度によって異なる

・ほか、さいたま市内の高校生との交流イベントや埼玉県国際交流協会の主催するグローバルセミナーに参加する予定である

⑨ コースの修了要件

受講した科目については、出席数・試験等規定を満たした場合単位を与える。

右記⑩ 2) II) 選択科目 i)、ii)、iii)の中から14科目以上の修得を修了要件とし、修了者には修了証書を交付する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 学生自身の日本語能力や研究領域、関心等に合わせた内容の科目が受講できる。

埼玉大学の各学部、日本語教育センター、教育機構等で開講している科目の内、各チーム7コマ以上、年間14科目以上を自由に履修できる。

学生の専門領域に当たる各学部専任教員が、指導教員として指導を行う。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

学生の日本語能力や興味等に合わせて科目を履修するので、必須科目は設けない。

II) 選択科目

i) 日本語科目

- ・集中日本語コース
(初級Aクラス～上級Eクラス)
- ・学部「日本語」科目(上級)
(読解・作文・聴解・文章作成)

ii) 基盤科目として開設される

人文・社会系科目
(例)・日本史概説・日本文学・文化概説

iii) 教養学部等にて開設される日本語・日本文化等に関する授業科目

・上記 i)、ii)、iii)の中から週7コマ以上、年間14科目以上受講する。

・時間数

1科目は試験を含めて16コマ
※1コマは90分

3) 見学、地域交流等の参加型科目

教養学部で開講している専門科目を履修すると、日本文化を学ぶために、落語、能・狂言、歌舞伎等の鑑賞会(鑑賞内容は年度によって異なる)に参加できる。

4) 日本人学生との共修の機会

教養学部開講の国際共修科目では、日本人学生との協働を主体とした授業を履修できる



⑪ 指導体制

- 1) 責任教員：所属学部指導教員
- 2) 協力教員：留学生担当教員、日本語教育センター教員、開設科目担当教員
- 3) 担当事務：所属学部事務室、留学・国際交流課



■宿 舎

埼玉大学国際交流会館には、単身室133室、夫婦室55室、家族室11室が、留学生居住用として用意されており、約260名を収容することができる。日本語・日本文化研修留学生は優先的に入居が認められる。退去日は8月下旬となる予定。

○単身室使用料月額：12,000円
管理費月額：12,900円
保証金：12,000円×5か月
退去時清掃費：24,200円
寝具レンタル月額：3,700円



○宿舎設備・備品

設備：浴室、台所、エアコン、インターネット、電話
備品：机、椅子、ベッド、洋服ダンス、冷蔵庫、本棚、その他

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

大型スーパー、家電量販店、病院、郵便局、コンビニエンスストア等が全て徒歩約15分以内にある。大学に隣接しており、通学時間は約7分。



■修了生へのフォローアップ

Facebookに国際交流を目的とした卒業生と在学生が参加できるグループを立ち上げ、大学からの情報発信や、日本での生活や卒業後の進路等について参加者が自由に意見・情報交換を行うことができる場として活用している。

当プログラム修了生の多くは、所属大学に戻り学位を取得後、日本で進学や就職をしたり、母国で通訳・翻訳業務に従事したり、日本語を教えたりと、日本にかかわる活動を継続的に行っている。

■問合せ先

<担当部署>

埼玉大学 留学・国際交流課

住所：〒338-0825

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

TEL：+81-48-858-3011（直通）

FAX：+81-48-858-9675

Email：ryugaku@gr.saitama-u.ac.jp

<ウェブサイト>

埼玉大学ホームページ

<http://www.saitama-u.ac.jp>

埼玉大学・国際交流のページ（日本語）

<http://www.saitama-u.ac.jp/international/>

埼玉大学・国際交流のページ（英語）

<http://en.saitama-u.ac.jp/>

Twitter

<https://mobile.twitter.com/kokusaisitsu>

Instagram

<https://www.instagram.com/kokusaishitsu/?hl=j>
[a](#)



千葉大学 (千葉県)

日本の学生とともに日本の多様性を学び、グローバルな視点を養います。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 1949年に発足した総合大学で、規模、内容とも国立大学法人の上位にあります。国際教養学部、文学部、法政経学部、教育学部、工学部、園芸学部、理学部、医学部、薬学部、看護学部の10の学部があります。また、人文公共学府、専門法務研究科、教育学研究科、融合理工学府、園芸学研究科、医学薬学府、看護学研究科、総合国際学位プログラムなど17の大学院が置かれています。

- ・学部学生定員：9,737名
- ・大学院学生定員：3,016名
- ・教授、准教授、講師、助教、助手：1,281名

2) 日本社会のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」として、文部科学省の重点支援を受け、留学生の受入れや派遣を積極的に行っています。2022年5月現在、861名の留学生が学んでいます。留学生の日本での生活をサポートするインターナショナル・サポートデスクも設置されています。

<http://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/>

3) 幅広い視野、批判的思考力、豊かな人間性を養うことを目指して行われる教養教育が充実しており、アクティブラーニング、協働学習を取り入れた授業が多数開講されています。

② 国際交流の実績

千葉大学は41カ国272大学と大学間交流協定を結び、活発に交流を行っています。2022年5月現在、協定校からの留学生が100名以上在籍しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数	861人、日研生	3人
2021年：留学生数	902人、日研生	7人
2020年：留学生数	933人、日研生	4人

④ 地域の特色

日本語・日本文化研修留学生が学ぶ西千葉キャンパス（千葉市）は、東京から電車で約1時間、成田国際空港から車で約45分のところにあります。人口約97万人の千葉市は、気候が温暖で物価も比較的安く、生活しやすいところです。また、千葉県は水と緑の豊かな自然に恵まれています。地域の環境については千葉県のホームページも参照してください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/>

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

1) 教育方針・特徴

日本語・日本文化を専攻し、将来にわたって日本研究を続ける意思のある留学生のためのコースです。日本の学生と協働して日本の文化・社会の多様性を学ぶことができ、グローバルな視点からクリティカルに日本を捉えられるようになります。チューター制度や語学交換プログラムなどを通して、日本人学生と交流を深める機会も十分にあります。

2) 研修内容

日本の文化・社会に関する授業の受講に加え、日本について興味のあるテーマで調査研究を行います。ア

カデミックな日本語能力を養いながら、日本に関する専門的な知識を習得し、研究能力を高めていきます。

日本語学習については、各自の日本語レベルに応じた日本語コースに参加し、四技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的に伸ばすことができます。

③ 受入定員

10名（大使館推薦6名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 資格

大学において2年以上の日本語教育を受けており、応募時および渡日時に日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していること。

2) 条件

日本語能力試験N2合格程度以上の日本語力があり以下のような運用能力を有することが条件です。

- ・自分が興味のある一般的な話題で会話を続けることができる。
- ・日本語で行われる留学生向けの基礎的な講義や演習に参加することができる。
- ・漢字1000字以上を習得し、辞書を使えば一般的な日本語の文章を自力で読むことができる。
- ・一般的な話題ならば辞書を使わなくても1000字程度の説明文、意見文を書くことができる。

日本に関係する特定の分野について研究上の関心を持ち、帰国後も研究を継続する意思のある学生、また、日本に留学した経験のない学生を積極的に受入れます。

⑤ 達成目標

日本の文化、社会の多様性を理解し、それらをグローバルな観点から捉えられるようになること、基

基礎的な学術日本語の運用力を習得して、日本語を使って研究が進められるようになることが目標です。修了レポートを作成し、発表会で報告します。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間 2023年9月下旬～2024年8月下旬
（在籍期間 2023年10月1日～2024年8月31日）
・秋学期：2023年10月1日～2024年1月下旬
・春学期：2024年4月上旬～2024年8月上旬
※学年暦は4月から始まります。千葉大学はターム制を取っているため、最初の学期（秋学期）は第4ターム～第5ターム、2番目の学期（春学期）は第1ターム～第2タームとなります。各タームは7週間、ほかにメディア授業が1回ずつあります。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬 渡日（2022年度は9/26）、オリエンテーション
10月 ウェルカム・パーティー
11月 ホーム・ビジット
12月 日帰りの見学旅行
6月 歌舞伎鑑賞教室、日帰りの見学旅行
8月上旬 終了式
8月下旬 帰国

※このほかにも、大学主催の「ユニバーサル・フェスティバル」（留学生による文化紹介の催し）や、小学校などで行われる国際交流活動に参加して自分の言語や文化を紹介する機会があります。※サークル活動や大学内で行われる留学生のための行事に参加することもできます。



⑨ コースの修了要件

必修の演習科目2科目（4単位、60時間）および選択科目を中心に、18単位以上履修し、修了レポートを提出して合格と認められた者に修了証書を授与します。

学習時間は概ね435時間以上になります。受講科目を登録し、一定の成績を修めた科目については、単位修得証明書を発行します。参加者への修了証書の送付は、2024年10月中旬になります。※上記コース要件を定められた研修期間より早く修了した場合、早期修了が可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
・必修科目「特別研究（文系）A・B」は、9カ月かけて修了レポートを作成する密度の濃い授業です。専門の異なる4名の教員がゼミ形式で指導します。7月には公開発表会を開催し、その成果はレポート集として刊行しています。

これまでの修了レポートのテーマの例
・ダウントウンにおけるおかしみ：言語学の観点から
・日本人のインドスイーツに対する受容性
・こと消費とポストこと消費時代
・日本アニメにおける妖怪文化の変容
・日本とヨーロッパの遊女の日常生活の比較
・男性による育児休業取得の阻害要因に関する考察

・千葉大学では「国際日本学」という副専攻があり日研究生は日本の学生とともに日本について学ぶ機会が豊富にあります。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（2コマ）
特別研究（文系）A・B〔30・30〕：日本に関するテーマを自分で選び、6000字以上の修了レポートを作成する。
※〔 〕内の数字は、授業時間数です。以下同じ。

II) 選択科目

以下の(1)日本語科目、(2)日本を学ぶ科目（人文科学系・社会科学系）を中心に、各自の日本語能力や興味・関心に合わせて履修科目を選択します。
(2)の科目はすべて日本人学生との合同授業です。

(1) 日本語科目
ブレースメントテストを受けて、中級以上の4つのレベルのいずれかに入り、各学期3科目以上受講します。通常、2学期目には一つ上のレベルに進みます。

日本語 500 中級	総合〔60〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文法〔30〕・文章表現〔30〕・漢字〔30〕
日本語 600 中級後半	読解〔30〕・統合型〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文章表現〔30〕・文法〔30〕・漢字〔30〕
日本語 700 上級前半	読解〔30〕・統合型〔30〕・文法詳解〔30〕・レポートの書き方〔30〕・口頭表現〔30〕
	読解〔30〕・発表資料作成〔30〕・文法詳解・レポートの書き方〔30〕〔30〕・口頭表現〔30〕
日本語 800 上級	読解〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・レポートの書き方〔30〕
	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・レポートの書き方〔30〕・発表資料作成〔30〕・統合型〔30〕

※日本語500、600は各学期同じクラスが開講されます。日本語700、800は上段が1学期目、下段が2学期目のクラスです。<https://jlcr.chiba-u.jp/top.php>参照。

(2) 日本を学ぶ科目（人文科学系・社会科学系）
日本人の精神・伝統文化A・B〔16〕：日本の文化・社会・宗教等に関する講義とディスカッションを行う。

日本イメージの交錯A・B〔各16〕：日本をめぐるイメージについて様々な素材・角度から議論する。

日本アジア文化交流史A・B〔各16〕：日本とアジア諸地域との文化交流を歴史的に振り返る。

近代日本のアジア観〔16〕：江戸末期から昭和戦後期までの日本の「アジア」観の特色を考察する。

特別研究(文系) C・D [30・30] : 国立歴史民俗博物館との共同授業。各自の母国から同博物館を訪問する人に向けて展示案内(ワークシート)を企画し母語で作成する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
持続的地域貢献活動実習Ⅰ・Ⅱ [30・30]
学部学生と共に地域(房総半島の農山漁村)の諸課題を発見し、現地に出向き活動しながら地域経済・社会活動を向上させていく方法を考える。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

以下の国際教養学部専門科目は、日本語・日本文化研修留学生を積極的に受け入れています。

日本の食文化 [16] : 戦後登場した食材あるいは料理を題材に、日本社会と食文化の関わりを概説する。

現代言語社会論 [16] : 現代の言語と社会をとりまく諸現象について、社会言語学の観点から理解を深める。

多文化接触論 [16] : 文化や言語の背景が異なる人々が接触する場面における諸現象と参加する人々の管理や調整の試みを紹介する。

多文化共生教育論 [16] : 日本社会の多文化化の経緯、現状を把握し、少数派と多数派が共生する上での課題について教育という視点から考える。

以下の千葉大学シラバス検索システムで詳しい情報を見ることができます。

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

また、上記以外の千葉大学で開講されている一般学生向けの授業も、担当教員の許可が得られれば受講することができます。

⑪ 指導体制

国際教養学部所属する以下の教員がガイダンスや個別指導を通して学業面、生活面のサポートを行います。

吉野 文 (専門: 日本語教育学、応用言語学)

西住 奏子 (専門: 日本語教育、語用論)

■宿 舎

千葉大学国際交流会館(単身用)に優先的に入居できます。過去3年間日研究生は全員が入居しています。寄宿料・共益費(インターネット接続料金込)は月額19,000円(光熱水料等は除く)です。このほかに、入館費として15,000円必要です。10月末までに10月分の寄宿料・共益費・入館費34,000円を現金で支払い、11月以降は毎月19,000円が銀行口座から引き落とされます。

国際交流会館のある稲毛から西千葉キャンパスまでは電車(1駅)です。徒歩または自転車で通学できます。

※宿舎にかかる費用は変更の可能性があります。

■修了生へのフォローアップ

・日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了者に対しては、個別に進路相談などの対応をしています。修了生の中には国の大学を卒業後、千葉大学をはじめとする日本の大学院に進学する人が少なくありません。

・大学・大学院卒業後は、日本で就職している人、大学で日本語、日本文学の研究者となっている人、国の日系企業で翻訳・通訳に従事している人など、何らかの形で日本と関わりを持っている人がほとんどです。



(インターナショナル・サポート・デスク)

■問合せ先

<担当部署>

千葉大学学務部留学生課

住所: 〒263-8522

千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL: +81-43-290-2193 (直通)

FAX: +81-43-290-2198

Email: mext-scholarship@chiba-u.jp

<ウェブサイト>

千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/>

<http://www.chiba-u.ac.jp/e/index.html>

千葉大学国際教育センターホームページ

<http://cie.chiba-u.ac.jp/>

<http://cie.chiba-u.ac.jp/index-e.html>

<コース内容に関する照会先>

吉野 文 大学院国際学術研究院 教授

Email: ayoshino@faculty.chiba-u.jp



横浜国立大学 (神奈川県)

緑と国際性豊かなキャンパスで日本語と日本学を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

横浜国立大学 (YNU) は、横浜師範学校 (1876年設置)、神奈川県立実業補習学校教員養成所 (1920年設置)、横浜高等商業学校 (1923年設置) 及び横浜高等工業学校 (1920年設置) を前身として1949年に誕生しました。

YNUは、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、21世紀における世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねています。

学 部 (5) : 教育学部、経済学部、経営学部、理工学部、都市科学部

大学院 (6) : 教育学研究科、国際社会科学府、理工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府、先進実践学環

学 生 数 (2022年5月1日現在) : 学部生7,160名
大学院生2,250名

常勤教職員数 (2022年5月1日現在) : 教員554名、職員293名



② 国際交流の実績

交流協定締結校数 (2022年5月1日現在) : 43カ国・地域
144大学・機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数 (5月1日現在) 及び 日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2022年 : 留学生751人、日研生2人 (大使館推薦2名、大学推薦0名)
2021年 : 留学生742人、日研生1人 (大使館推薦1名、大学推薦0名)
2020年 : 留学生890人、日研生4人 (大使館推薦3名、大学推薦1名)

本学の全学生のうち、留学生が占める割合は約8%と大変高い比率となっています。日本語・日本文化研修留学生の受入れは2014年に開始しました。

④ 地域の特徴



横浜国立大学の学部・大学院はすべて横浜市にある常盤台キャンパスに集約されています。

横浜は東京から電車で30分のところに位置し、人口370万人を誇る日本第二の都市です。200年以上にわたる江戸幕府の鎖国政策が終わり、世界に開かれた港が作られたのが横浜でした。したがって日本の近代化・国際化は横浜から始まったと言えます。現在は異国情緒のあるオシャレな街として、若者を中心に人気の観光スポットになっています。また、日本初の幕府があった古都鎌倉からも近く、非常に魅力的な立地です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

充実した日本語プログラムで、日本語力を高め、世界各国から集まる留学生及び日本人学生とともに日本学関連科目を学び、少人数のゼミで自分の研究テーマを深めることができます。

③ 受入定員

5名 (大使館推薦4名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

以下の全ての要件を満たしている者を対象とします。

- a. 日本語・日本文化に強い関心を持ち、継続的に学習している者
- b. 「日本語能力試験」N2以上または同等の日本語能力を有する者
- c. 在籍大学における学業成績が上位の者



⑤ 達成目標

- ・ 研究分野において、質の高い成果を発信できる知見と日本語力を得ること。
- ・ 日本人学生及び地域コミュニティとの交流を通じて日本の理解を深めること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2023年8月中旬
（在籍期間：2023年10月1日～2023年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2022年は9月29日）

10月： 秋学期開講、オリエンテーション

11月： 常盤祭

2月： 研究発表会、秋学期修了

4月： 春学期開講、オリエンテーション

5月： 清陵祭

8月： 研究発表会、春学期修了・修了式

8月中旬：帰国（2022年は8月30日）



⑨ コースの修了要件

必須科目2単位を含む、学期毎12単位以上取得
成績証明書の発行の可否：可

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研究と実践活動を重視しています。研究は「日本学プロジェクト」で各自の関心に沿って、テーマの絞り方や文献検索、データの収集から、研究レポート・ポスターの作成に至るまで、毎週のゼミを通じて、少しずつ完成させていきます。日本語・日本事情科目も多数そろえ、日本語のレベルに応じ、学部科目や英語科目も履修できます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

日本学プロジェクト（週1コマ90分）――1年間を通して、日本学に関する研究レポートを完成させます。

http://www.isc.ynu.ac.jp/about/program/japan_studies_project/

II) 選択科目・内容

日本語レベル、英語レベルに応じて、日本語・日本事情科目（アカデミック・ライティング、経済記事の読み方、待遇表現、神奈川学、異文化コミュニケーション、震災と復興など）及び英語による学部の授業（文学、言語、経済、経営関連科目）を交換留学生と一緒に履修します。

<http://www.isc.ynu.ac.jp/study/>

<http://www.isc.ynu.ac.jp/english/about/program/joy/index>

研究テーマ及び日本語レベルによっては学部の授業及びゼミに参加できる場合があります。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「日本の企業システム」

三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーが豊富な実体験を元に、日本企業を多様な角度から紹介します。プログラム担当教員は三井ボランティアネットワーク事業団横浜国大部会と連携の元、この科目に関連する工場見学会に加え、座禅会、着付け体験等の文化体験イベントを実施しています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

学部のゼミ、全学教育科目等で日本人学生と共に学ぶ機会があります。修了発表会は日本人学生と共に実施する予定です。



⑪ 指導体制

プログラム担当教員

小川 誉子美（国際戦略推進機構教授）

長谷川 健治（国際戦略推進機構准教授）

その他サポート

●留学生オリエンテーション

学期のはじめに新入生に対してオリエンテーションを行っています。留学生活に必要なこと、日本語学習に関すること、留学生向けの事務手続き等について説明します。

●105 & ISL

学生サポートグループが勉強や学内の各種手続きのサポートを行うほか、ウェルカムパーティー、BBQ、インターナショナルフードパーティーなど、日本人と留学生の交流イベントを多数企画している。



■宿 舎

大学の宿舎への入寮を希望する日本語・日本文化研修留学生は、常盤台インターナショナルレジデンス（シェアタイプ：8人1組でキッチンや浴室・トイレを共有する個室付きのシェアユニットタイプ）に優先的に入居することができます。

大学敷地内のため通学時間0分、電車賃もかかりません。

○宿舎数：シェアタイプ（8㎡） 112室

○宿舎費：賃料 32,500円/月

共益金 6,000円/月

水道光熱費 12,000円/月（税別）

入居一時金 50,000円（税別）

○宿舎設備・備品：家具、家電付き



■修了生へのフォローアップ

YNUでは約130名の国費外国人留学生が在籍しています。修了生が、派遣元大学卒業後に本学への正規留学（国費外国人留学生（研究留学生）を含む）を希望する場合には相談に応じます。これまでも、本学修士課程へ進学するケースが複数件ありました。



■問合せ先

<担当部署>

横浜国立大学学務・国際戦略部グローバル推進課

住所：〒240-8501

神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-8

TEL： +81-45-339-3131（直通）

FAX： +81-45-339-3189

Email： kokusai.shien@ynu.ac.jp

<ウェブサイト>

横浜国立大学日研究生ウェブサイト：

https://global.ynu.ac.jp/admissions/mext_culture/

横浜国立大学国際教育センターホームページ

<http://www.isc.ynu.ac.jp/>

留学生向け大学案内「Why Study at YNU?」

<https://www.whystudyat.ynu.ac.jp/international/>



山梨大学 (山梨県)

徹底した研究指導。修了生の実に2/3が論文公刊。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

◇歴史

山梨大学の歴史は古く、江戸(えど)昌平黌(しょうへいこう)の分校である甲府学問所「徹典館(きてんかん)」が1796年に設立されたことに始まります。その後、さまざまな変遷を経て、1949年に山梨師範学校、山梨青年師範学校、山梨工業専門学校の3つの教育機関が母体となり、山梨大学が発足し、2002年には山梨医科大学と統合して、現在の山梨大学となりました。山梨大学は、歴史ある大学です。

◇キャッチ・フレーズ 「地域の中核、世界の人材」

このキャッチ・フレーズのもと、山梨大学は個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

研究教育の分野でも、世界に誇るクリーン・エネルギー研究、クリスタル科学研究、そして日本で唯一のワイン科学研究など、未来世代に向けての世界規模の研究を、地域企業との協力・連携を行ないながら進めています。

◇組織

学部：教育学部、工学部、医学部、生命環境学部
大学院：医工農総合教育部（修士・博士）、教育学研究科（教職大学院の課程）

○教員数（本務者）： 749人
○学生数 合計： 4,748人
（大学院生）： 914人
（学部生）： 3,793人
（非正規生等）： 41人



② 国際交流の実績

2022年

大学間交流協定数：18カ国・地域、68協定



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数231人、日研生8人

2021年：留学生数239人、日研生0人

2020年：留学生数229人、日研生0人

*2021年度までの日研生の受入人数が0人なのは、2022年度から文部科学省の「日本語・日本文化研修プログラム」に参加したため。

山梨大学では独自の「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」を2016年10月から行い、毎年優秀な修了生を輩出してきました。

「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」受入れ実績

2022年：2人

2021年：3人

2020年：3人



④ 地域の特徴

山梨県は東京の西隣に位置しながらも、自然が豊かで、山梨大学からは富士山が見えます。春には桜だけでなく、桃の花見も行われるほど桃の生産量が多く、ぶどうの生産量とともに日本一です。また、ワインの生産もいち早く始まり、ワイナリーも点在しています。一方、大学周辺に史跡も多く、県内各所に非常に多くの博物館や美術館がありますので、歴史や文化の香りに触れることもできます。普段は自然豊かな中で落ち着いて勉強や研究に勤しみ、休日には気軽に東京へと足を伸ばせる理想的な環境だといえます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

◇選べる2つのコース

A「研究コース」

ゼミに所属し、そこで徹底的な研究指導を受けます。日本学（言語・文化等）のエキスパートを目指す、あるいは大学院進学を目指す人のためのコースです。研究成果を学会で発表したり、論文を投稿したりすることも視野に入れます。帰国後も指導教員から研究指導を受けられます。

B「研修コース」

ゼミには所属しませんが、日本でしかできないような事例をテーマにして調査します。指導教員から、あるいは留学生のための日本語 Student Assistantからの指導サポートを得てレポートを作成し、それに基づいたプレゼンテーションができるようにします。

◇レベル別、目的別の日本語授業

日研生が受講可能な日本語授業は4レベルに分かれています。授業は「論文・レポートを書く」、「口頭発表をする」等、具体的な目標が掲げられており、目的に応じて授業が選べます。また、JLPT N1対策の授業もあります。夕方の時間帯には本学の日本語サポートSA(Student Assistant)と日本語会話の練習をしたり、レポート作成のサポートを得たりすることもできます。

◇全学共通教育科目から専門科目まで

留学生だけで学ぶ科目は日本語科目だけですが、それ以外の科目は全て日本人学生と共に学ぶことができ、日本人学生との交流や協働学習に適した学習環境となっています。日本語のレベルによっては、全学共通教育科目(一般教養科目)だけでなく、専門科目の授業も受けられます。言語、文化、文学、歴史、経済、政治、教育、異文化理解など、自身の興味に応じて授業を選択できます。



③ 受入定員

12名（大使館推薦4名、大学推薦8名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ JLPT N2以上、または同等以上の日本語力を有すること。
- ・ 本国において、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していること。
- ・ 日本文化、日本社会の理解に努め、母国との架け橋となるのに相応しい者。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はJLPT N1の取得を目標とする。
- ・ 修了論文、または修了レポートを作成し、成果発表会でプレゼンテーションする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年9月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬： 渡日（2022年は9月26日受入れ開始）
日本語プレイスメント・テスト
ガイダンス
10月： 後期授業開始
11月： 大学祭
甲府市岩窪地区住民との文化交流会
12月： 学長主催外国人留学生懇談会
Holiday Party
2月： 中間発表会
実地見学旅行（1泊2日）
4月： 日本語プレイスメント・テスト
前期授業開始
甲府信玄公祭り
5月： 食べ物異文化交流会
7月： 茶道体験、柔道体験、桃農園見学
8月： こおりゅうまつり（[こ]どもと[お]となと[りゅう]がくせいのまつり）
成果発表会
9月： 修了式
9月下旬： 帰国



餅つき体験
（地域住民との文化交流会）



甲府 信玄公祭り



柔道体験



流しそうめん
（「こおりゅうまつり」）

⑨ コースの修了要件

選択したコースによってプログラム修了に必要な科目数が異なります。

選択/必修	A 「研究コース」	B 「研修コース」
1. 必修 （ゼミに相当する科目）	2科目・ 4単位	—
2. 選択必修 （日本語科目）	2科目・ 4単位	2科目以上・ 4単位以上
3. 選択 （上記以外の科目）	6科目・ 12単位	6科目以上・ 12単位以上
合計	10科目以上・ 20単位以上	10科目以上・ 20単位以上

上記に加え、A「研究コース」は修了論文提出と口頭発表、B「研修コース」は修了レポート提出と口頭発表が求められ、修了者に対しては修了証書が発行されます。成績証明書の発行も可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本学は2学期制（後期10月～3月、前期4月～9月）で、いずれの学期も15週間学びます。授業は1コマ（1つ）90分で、それが15回行われ、試験に合格すると1～2単位付与されます。各学期の初めに日本語プレイスメント・テストが行われますので、その時の日本語力に合った科目を履修することができます。また、A「研究コース」を選択した学生はゼミに所属して徹底的に研究指導を受けます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

必修科目（ゼミに相当する科目）

- ・ 地域社会システム学演習（後期）
- ・ 地域社会システム学セミナーI（前期）

文献収集、講読、データの収集方法と分析方法を習得し、論文にまとめ上げる

II) 選択科目

選択必修科目（日本語科目）

- ・ 日本語中上級I 論理的根拠に基づいて話す
 - ・ 日本語中上級II レポートの書き方
 - ・ 日本語上級I 論文の書き方
 - ・ 日本語上級II 資料読解と発表の仕方
 - ・ 日本語演習 発表の仕方
 - ・ 日本語LR JLPT N1レベルの読解演習
 - ・ ビジネス日本語 ビジネス場面で用いられる日本語
- *上記以外に初中級から中級レベルの日本語科目が8科目あります。

選択科目（上記以外の科目）

全学共通教育科目（一般教養科目）だけでなく、専門科目の授業から、言語、文化、文学、歴史、経済、政治、教育、異文化理解など、自身の興味と日本語力に応じて科目を選択できます。

*これまでのプログラム生が履修した主な科目

- ・ 日本事情I/II<日本文化を見つめなおす>
- ・ 日本語教授法<日本語の教え方の基礎>
- ・ 日本語の音声・音韻<日本語音声学>
- ・ 日本古代の政治と文化<甲斐国（現山梨県）の歴史>
- ・ 日本国憲法<社会問題と法>
- ・ 書写演習I/II<書道の知識と技能>

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・日本事情I/II

講義、ディスカッションと、実地見学旅行や地域交流を有機的に結び付けて授業を行います。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語科目以外は全て日本人学生と共に学ぶこととなりますが、以下の3科目は特に「共修」ということを意識して授業が行われています。

・日本事情I/II

様々な視点から日本文化を見つめなおす

・How to Effectively Study a Foreign Language
外国語を効果的に学習する方法を共に考える

・Health System and Well-being in the World
医療制度と社会福祉に関する諸問題を考察する

⑪ 指導体制

「研究コース」、「研修コース」いずれの学生にも本学学生がチューターとして1年間日本での生活や日本語学習のサポートをします。

1. 「研究コース」の学生は国際交流センターに所属し、日研生プログラム担当教員が指導します。

教員名	専門分野	キーワード
江崎 哲也	音声学 日本語教育学	学習者の音声 音響音声学 コーパス言語学 ブルガリア語
伊藤 孝恵	日本語教育学 社会学	日本語教育 キャリア教育 留学生支援 多文化共生
會田 篤敬	日本語教育学 英語教育学	学習者心理 教育史 正課外教育
布村 猛	日本語教育学 音声学	学習者の韻律 フィールド言語学 地域日本語教育

2. 「研修コース」の学生は、国際交流センター以外の教員が指導することもあります。



G-Philos (グローバル共創学習室) で
楽しく日本語会話



Holiday Party

■宿 舎

○宿舎数

単身用101室、夫婦用2室、世帯用2室

○宿舎費

単身用 12,000円～15,000円、
夫婦用 17,000円、世帯用 21,000円

○宿舎設備・備品

主に各部屋に机・イス・ベッド・クローゼット・バス・トイレ・エアコン（バス・トイレは共用のこともあります）。

キッチン・洗濯室は共用（宿舎により異なる）

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

大学・最寄りのコンビニエンスストアまで約1km、最寄りのスーパーまで約2km

通学時間：自転車で約5分（宿舎により異なる）



宿舎外観

■修了生へのフォローアップ

SNSやEメールで進学、または就職についての相談に応じます。なお、「研究コース」修了学生に対しては、修了後1年にわたって派遣校の指導教員と共に研究指導を行い、学会での発表や論文投稿を目指します。これまで山梨大学独自の「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」を行ってきましたが、修了後1年以上を経た修了生の約3分の2にあたる11名が本学の紀要に投稿し、掲載されています。また、そのうちの1名は中国国内で行われた論文コンクールで上位入賞を果たしています。



大村智記念学術館

（本学を卒業した大村智博士のノーベル賞受賞とその偉業を称え、創設されました。）

■問合せ先

<担当部署>

山梨大学国際部国際企画課

住所：〒400-8510

山梨県甲府市武田4-4-37

TEL： +81-55-220-8047（直通）

FAX： +81-55-220-8019

Email： yu-study-abroad@ml.yamanashi.ac.jp

<ウェブサイト>

山梨大学国際交流センター・国際部：

<https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/>

山梨大学：

<https://www.yamanashi.ac.jp/>



信州大学 (長野県)

豊かな自然。地域とのふれあい。実践に則した日本語が学べます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

信州大学は8学部（人文、教育、経法、理、医、工、農、繊維）、5大学院研究科（総合人文社会科学、教育学、総合理工学、医学系、総合医理工学）を擁する総合大学です。松本・長野・上田・伊那に5つのキャンパスがあり、学部学生約9,000名、大学院生約2,000名、計約11,000名が学んでいます。そのほかにグローバル化推進センター、6つの研究領域で特色のある最先端の研究を行う先鋭領域融合研究群などの教育・研究施設があります。キャンパスのある各地域は、豊かな自然環境と伝統ある教育環境に恵まれ、独自の発展をみせています。



松本キャンパスの中央図書館

信州大学は各地域の発展のために教育的にも経済的にも大きな貢献をしており、日本の大学ランキングの「地域貢献度」では2012年から4年連続、そして2019年2020年にも日本一になりました。

② 国際交流の実績

海外の大学との学術交流協定(2022年5月1日現在)

大学間協定：119大学 学部間協定：93大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数335人、日研生4人

2021年：留学生数313人、日研生5人

2020年：留学生数365人、日研生2人

④ 地域の特徴

本学は、「信州」という日本国内で有名な山岳リゾートに位置しており、日本のほぼ中央にあります。高い山々に囲まれ、四季折々の景色が美しく自然豊かな地域です。登山に関しては日本一であり、国立公園や高原、山々など、自然の中に簡単に入って楽しんだりフィールドワークを行うことができます。歴史を感じさせる古城や神社仏閣が多くあるほか、豊富な温泉も長野県の大きな特徴の一つです。1998年に冬季オリンピックが長野市で開催されたように、冬はウィンタースポーツの中心地としても有名です。

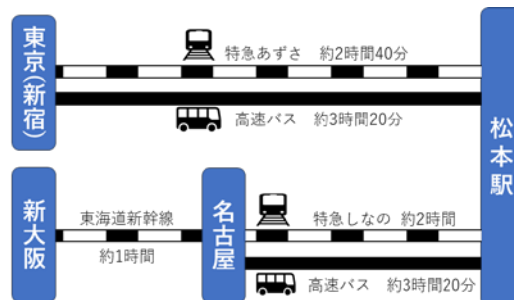


松本城



紅葉の北アルプス

日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）が学習する松本キャンパスは、日本の中心にあるため、東京・名古屋から電車で2時間30分、大阪からでも3時間30分と大都市への移動も簡単です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

信州大学では日本語教育を実施しており、レベル別指導やアカデミックな日本語の指導まで幅広く行っています。また、日本文化についても学習機会が多くあります。さらに、人文・経済・理学の専門科目の受講も、条件がそろえば可能です。



授業の様子

また日研生が自国の紹介を行うことにより、日本人学生の国際理解進展につながり、お互いに刺激しあっています。それにより日研生の出身国に留学する日本人学生が増え、また日研生が信州に戻るなどプラスの循環が見られます。これからの日研生にも同様の活躍を期待しています。



授業で着物体験

多文化共生と国際交流の祭り

③ 受入定員

5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本人と一緒に授業が受けられる人
- ・辞書を引きながら日本語の資料が読める人
- ・自分の専門分野について日本語で説明できる人
- ・日本人と積極的に関わる意志がある人
- ・日本人に自国の文化を紹介する意志がある人

⑤ 達成目標

CEFRの「C1」程度を目標としますが、自分の専門分野について、日本人に日本語で効果的なスピーチができれば達成とみなします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
(2023年10月1日 ～ 2024年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月



⑧ 研修・年間スケジュール（変更になることがあります）

- 9月下旬 渡日
- 9月下旬 日研生ガイダンス・授業開始
- 10月 浅間温泉たいまつ祭り（日本三大奇祭）
- 12月 多国籍料理パーティー
- 1月 1学期目のテストおよびレポート
- 4月 日本人交流グループとお花見
- 6月 多文化共生と国際交流の祭り
(一般の日本人と共に祭りを創る)
- 7月 2学期目のテストおよびレポート
- 8月 発表会
- 8月 松本ぼんぼん（松本最大の祭り）
- 8月 修了式・帰国



⑨ コースの修了要件

以下の条件を満たせば修了となります。

- 1) 必修科目を含む12科目14単位以上を修得する。
- 2) 国際共修・国際理解に関する講座に参加する。
- 3) 期間中の学びを発表会で発表する。

修了要件をクリアした者は、修了証書を授与します。帰国後になりますが、信州大学の発行する成績証明書を、単位認定後に郵送します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の概要

⑦ コースの概要

日本語と日本人との共修授業や講座を中心に学びます。論文作成指導では、各自のテーマについて、論文を日本語で執筆し、成果をまとめて提出します。

④ ICP (Intercultural Co-Learning Project) 活動

テーマに沿って、留学生と共に学ぶことを希望する日本人や他の留学生とチームを組んで進めます。研究方針、データ集め、結果の分析等を行い、グループの意見をとりまとめ、最終プレゼンに臨みます。他の学生と密接な交流ができます。



ICP(国際共修)発表会の様子

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

⑦ 日本語作文

- ① 一般学生向けに開講する教養科目、専門科目
2学期目に留学生に特化していない授業を3科目（6単位）以上受講することを必須とします。
日本語レベルが低いと判断した場合、必須科目を一部変更する場合もあります。

II) 選択科目

以下の授業を受講することを推奨しています。

- ・「国際理解と多文化共生を考える」
日本人との共修による多文化共生等の学習
- ・「グローバル人材力ゼミ」
様々な活動を通じて多様性について学ぶ
- ・「日本社会と日本人」
就職活動やビジネス等、日本の様々な側面の紹介および議論
- ・「武道伝統文化実習」
茶道、着物、剣道など

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容

信州大学にある教育学部附属小学校や中学校の国際理解講座の授業に参加します。小・中学生と交流しながら日本の初等教育についても学び、皆さんの国の教育を小中学生に伝えます。



附属中学校での国際共修

4) 日本人学生との共修科目及び具体的な内容 「国際理解と多文化共生を考える」

この授業は日本人学生と留学生がほぼ半数の50-70名で受講するもので、日本人・留学生同数の小グループ(4, 5名)を形成します。授業は、講師が日本や世界の多文化共生に関する情報や直近の世界的話題を提示し、問題提起した後にディスカッションをする形で進みます。毎週の課題と小テスト、グループ全体でのスライド作成、期末レポート等の課題を通じて学習を深めます。



安曇野での日本人との交流会

グローバル化推進センターが開講する授業については、ホームページで詳しく調べることができます。

⑪ 指導体制

・指導教員

日研究生はグローバル化推進センターの所属となり、専任教員が学業面・生活面について個別指導を行っています。

専任教員： 佐藤友則

・協力教員等

人文学部等、専門分野の協力教員と連携して多岐にわたる専門の学習をサポートしています。

・チューター

日本人学生がチューターとして、皆さんをサポートします。来日時の煩雑な手続きや学習面、生活面の相談相手、観光スポットの紹介など頼れる相談相手です。



国宝松本城と留学生たち

■宿 舎

① 宿舎状況

キャンパスまで歩いて10分以内のアパートを紹介しています。エアコンが設置され、インターネット環境も整っています。

② 宿舎費

32,000円～35,000円/月（インターネット無料、光熱費は別）
入居時初期費用：約10,000 ～ 48,000円/年（共益費ほか）
＊費用は変更の可能性あります。

③ 設備

家具・家電製品・ガスコンロがついています。身の回りのものだけ持ってくれば生活ができます。自炊可能です。



■修了生へのフォローアップ

信州大学の日研究生プログラム修了生とは、信州大学国際交流同窓会を通じて連絡を取り合っています。同窓会の本部は松本、支部は、韓国、中国（北京&上海&石家荘）、タイ、モンゴル、ベトナム、マレーシアにあり、将来的には欧州、米国、インドネシアなどにも展開が予想されています。

修了生の中には大学教員になっている人もおり、その修了生の勤務する欧州の大学と信州大学の大学間交流協定締結が実現したり、その大学から新たな日研究生が来学するなどの成果があがっています。また、卒業後に長野県の企業に就職し、母国と長野県の懸け橋になっている者や、休暇で松本を訪問し、自分が勤める会社について日本人学生にプレゼンをする者もいます。



国際交流同窓会・松本の様子



キャンパスを歩く留学生と日本人学生



「松本ぼんぼん」祭りの踊りの練習

■問い合わせ先

<担当部署>

国際部国際企画課

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL +81-263-37-3366

FAX +81-263-37-2181

E-mail: gecschlr@shinshu-u.ac.jp

<担当教員>

グローバル化推進センター 佐藤友則

E-mail: stomo@shinshu-u.ac.jp

<ウェブサイト>

グローバル化推進センターホームページ:

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/gec/>

信州大学ホームページ:

<https://www.shinshu-u.ac.jp/>



新潟大学 (新潟県)

日本語力を磨いて、リアルな日本を体感しよう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

新潟大学は1949年に設立され、10学部、5大学院研究科、医歯学総合病院を有し、約12,200人の学生と約3,300人の教職員を擁しています。日本海に面している県にある大学としては、最大規模の大学です。新潟市にふたつのキャンパスがあります。市の中心部に位置する旭町キャンパスには、医学部、歯学部および附属新潟小学校、中学校、特別支援学校があり、市の西部にある五十嵐キャンパスには、8学部があります。

② 国際交流の実績

大学間交流協定：30カ国・地域 102件
学部間交流協定：34カ国・地域 258件



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 383人、日研生 2人
2021年：留学生数 366人、日研生 3人
2020年：留学生数 468人、日研生 5人

④ 地域の特色

新潟県は質の良いお米と日本酒の産地であり、また、豪雪地帯として有名です。新潟大学の所在地である新潟市は、あまり雪は降りませんし、東京と比べて物価が安く生活費が多くかかりません。ですから日本語と日本の（地域）文化を学びたい学生にとっては、ちょうど良いところですよ。夏は大学の近くにある海で海水浴、また、冬はスキーやスノーボードといった雪国らしい楽しみ方もできます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

留学生だけの日本語のクラスで日本語を学ぶのではなく、日本人との共修科目（例：アクティブラーニングA/B/C）の中で、実際に使用しながら日本語を学ぶ機会を設定しています。共修科目では、広く日本の文化について、日本人とできるだけ意見交換をしながら、中から見る日本と、外から見る日本を比較することで、より深く日本を理解してもらうことを狙いとしています。もちろん留学生向けの日本語のクラスの中でも学ぶことが可能です。

ここでいう日本の文化とは、歴史や宗教などに限らず、アニメや若者文化といった、現代日本文化についても含まれます。さらに新潟という地域の特徴的な文化も学ぶことができます。新潟は日本でも有数の米どころ、酒どころです。また世界でも有数の豪雪地域でもあるので、独自の雪文化などを学ぶこともできます。

また、実地見学旅行、ホームステイなどに参加する機会も設けています。これらに積極的に参加することによって、本物の日本を肌で感じてもらいたいと思っています。

③ 受入定員

10名（大使館推薦8名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムに参加を希望する学生は、新潟に来る前に日本語能力検定試験N2に合格しているか、あるいは講義内容を理解するのに必要な日本語能力を有していなければなりません。また学業に専念してもらうために家族と一緒に来日することはできません。

⑤ 達成目標

日本語で調べた日本について、日本語でプレゼンテーションできる力をつけることを目標とします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年9月下旬～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬 渡日
10月 始業式 / ウェルカムパーティー
12月 ミュージックフェスティバル
学習成果発表会 / 温泉まちあるきツアー
1月 もちつき大会
2月 地域住民との交流会
4月 ウェルカムパーティー / 花見
6月 学習成果発表会 / ホームステイ
7月 松竹大歌舞伎 / ホームステイ
8月 地域の祭り / 終業式
ペア・スピーチコンテスト
8月下旬 帰国



⑨ コースの修了要件

プログラムを修了すると、修了証書及び成績証明書を発行します。
修了要件は、必須科目4単位（2単位/期）を含む年間20単位以上（最低10単位/期）の履修です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

各自の興味にしたがって日本のあらゆる文化について、日本語クラスと日本人との共修クラスを中心に学んでいきます。さらにレポート作成指導では、各自のテーマについて日本語で発表し、それをまとめて提出します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

秋期には課題研究Ⅰが、春期には課題研究Ⅱが必須科目となります

◆ 課題研究Ⅰ・課題研究Ⅱ

課題研究のため、演習形式で行われます。担当教員からレポート作成や発表会に向けて指導を受けます。

II) 選択科目

一般学生が受講する科目には、日本語・日本文化研修留学生も同じように受講できる科目が多くあります。授業を通じて日本人学生との交流を図ることができます。地域に根ざした文化を学べる授業もありますので、新潟をよりよく知ることができます。

● 必須科目（予定）

	科目名	単位	時間数
①	課題研究Ⅰ／Ⅱ	各2	32

● 選択科目（日本語科目）（予定・一部抜粋）

	科目名	単位	時間数
②	日本語読解Ⅰ～Ⅵ	各1	16
③	英語による日本語文法解説	1	8
④	中国語による日本語文法解説	1	8
⑤	JLPT-N1	1	16

● その他の選択科目（予定・一部抜粋）

	科目名	単位	時間数
⑥	日本事情科目	2	15
⑦	多文化間共修A/B/C	各1	各8
⑧	日本近代文学J	2	30
⑨	地域から文化を考える	2	15
⑩	日本と外国人	1	8
⑪	アクティブラーニングA/B/C	各1	各8
⑫	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA/B	各2	各16
⑬	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A/B	各2	各16
⑭	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1	8

◆ 各種日本語科目

日本語能力検定試験のN1対策授業、日本語読解と英語または中国語による日本語文法解説のクラスが受講できます。ほかには少しレベルの高い、社会人としての日本語力やコミュニケーション能力、異文化理解力などを身に付ける科目があり、これは将来国際的な仕事をし、日本／日本人と関わることが希望する人向けに設定された授業科目です。また将来、日本の大学院などに進学するため、日本語と自分の母国語、日本の文化と自分の文化を比較・研究する科目も受講できます。

● 履修モデル（N2レベル）

	月	火	水	木	金
1限			⑪		⑦
2限			⑥		
3限	⑫			⑬	
4限		①	②(V)		②(VI)
5限					

N2レベルの学生が、週に8コマ、12単位を修得する履修モデルです。履修科目名は、科目一覧表に書かれている数字と照らし合わせてご確認ください。他にもレベル別に履修モデルを組んでいます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

授業科目ではありませんが、年間の行事の中で、施設見学や地域住民と交流する機会がたくさんあります。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本人学生とともに学べる科目がたくさんあります。また日本人学生をチューターとして配置しています。また「外国語学習支援スペース」などでは、日本人学生の外国語学習のチューターとして活躍しています。

⑪ 指導体制

本プログラムでは担当指導教員による個人指導を必ず受けます。個人指導の内容は主に、レポート作成に向けての学業指導です。必要に応じて生活指導も行います。



学習成果発表会



もちつき大会（留学生と新春を祝う会）

■宿 舎

新潟大学国際交流会館

設備：バス、トイレユニット、キッチンユニット、給湯設備、冷暖房用空調設備

備品：ベッド、机、椅子、書棚、洋服タンス、食器棚（テーブル付）、食卓イス、ガスコンロ、冷蔵庫、電子レンジ、消火器

寄宿料：月額22,000円（単身室）

外国人研究者および留学生のための宿舎としてキャンパス内に国際交流会館があります。

また、大学近くのアパートを「生協委託宿舎」として、留学生に提供しています。



■修了生へのフォローアップ

日研生担当教員が修了生とメールなどで常に連絡を取り合っています。

また、入試説明会などで当該国に行く場合には修了生に協力してもらっています。日本の大学院への進学を希望する修了生に対して相談に応じています。



■問合せ先

<担当部署>

新潟大学国際センター / 留学交流推進課

住所： 〒950-2181

新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地

TEL： +81-25-262-6189（直通）

FAX： +81-25-262-7519

Email： intl-scholarship@adm.niigata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

国際交流・留学情報ホームページ：

<https://www.niigata-u.ac.jp/international/>

新潟大学：

<https://www.niigata-u.ac.jp/>



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学 (茨城県)

自然・文化・国際性豊かな「サイエンスシティ」つくばで学ぶ日本語・日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

筑波大学は、国内的にも国際的にも「開かれた大学」として、旧来の固定観念に捉われない柔軟な教育研究組織と時代の要請に応える新しい大学の仕組みを創出することを基本理念として、1973年10月に開学した。社会経済環境が大きく変化するなか、筑波大学は未来を構想するフロンティアと自らを位置付け、地球規模の課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材を輩出する、世界的な教育研究の拠点となることを目指している。

学生数等 (2022年5月1日現在)

学部名: 人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群、グローバル教育院、総合学域群

教員数: 教授、准教授、講師、助教、助手

計 1,821名

学生数: 学群生9,631名、大学院生 6,876名

計 16,507名



② 国際交流の実績

留学生在籍数: 2,226名/117ヶ国

(2022年5月1日現在)

大学間交流協定数: 381 (2022年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年: 留学生数 2,226名 日研生 4名

2021年: 留学生数 2,688名 日研生 3名

2020年: 留学生数 2,679名、日研生 3名

④ 地域の特徴

つくば市は、東京の北東60km、北に筑波山を仰ぎ、東に霞ヶ浦をのぞむ自然環境の豊かな地域に位置している。筑波研究学園都市(サイエンスシティ)として国内外に知られており、市内には、国の研究機関・大学を中心とし、民間の研究・教育機関等が多い。そのため、外国からの研究者・留学生が多く住んでおり、国際色豊かな街を形成している。つくばと東京都心はつくばエクスプレス(TX)により最短45分で行き来することができる。



自然豊かなキャンパスが魅力

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

(a) 日本語・日本文化研修留学生(以下、日研生という)向けの授業科目を設けている。その他の科目でも、日研生の興味に応じた授業を履修することができる。

(b) 日本語と日本文化について、教室内外での実習による学習を重視している。

(c) 修了レポートの執筆を課している。

(d) 様々な研究内容に対応可能な指導体制で、親身できめ細かい指導を行う。一人一人に学術チューターがつく。

③ 受入定員

8名(大使館推薦: 6名 大学推薦: 2名)

④ 受講希望者の資格、条件等

日研生となることを希望する者は、以下の条件を満たす者とする。

i) 資格

来日時点で、外国(日本以外)の大学の日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍する者、またはそうした学部・学科に所属していない場合であっても、日本語・日本文化に強い関心を持つ者。ただし、1年生は対象外とする。

ii) 日本語能力

日本語による授業を理解し、日本語の参考文献を読み、日本語でレポートを書き、口頭発表を日本語で行なう能力のある者。日本語能力試験N2程度以上が必要となる。

⑤ 達成目標

日本の言語と文化について幅広く学び、日本についての理解を深める。これらの学習を通じて日本語の運用能力を高める。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月下旬 ～ 2024年9月下旬
(2023年10月1日 ～ 2024年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年9月

⑧ 年間行事・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2022年は9/20～9/22）

9月末：各オリエンテーション

11月：留学生パーティー

11月下旬：学外研修

12月：修了レポート構想発表会

4月：修了レポート中間発表会

5月：日本語・日本文化学類生との交流会

7月：修了レポート発表会

9月初旬：修了式（2022年は9/6）

9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

合計20単位以上修得し、日本語・日本文化分野に関する修了レポートを提出した者には「修了証書」を授与する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日研生は主に日本語・日本文化分野に関する授業に興味に応じて履修することができる。また、日本語能力を向上するため、本学が開講する日本語コースを履修することもできる。修了レポート執筆に係る科目群において、日本語によるアカデミックライティング指導を重視した科目づくりになっている。

表 1 研修科目及び単位数

	研 修 科 目	計
(Ⅰ)	日本語・日本文化実験実習	1
	日本語・日本文化基礎研究	1
	日本語・日本文化特別研究	2
	日本語・日本文化修了レポート	2
(Ⅱ) *	現代日本語概論Ⅰ	1
	言語学概論	1
	日本語教育概論	1
	日本の文学概論	1
	日本文学の歴史	1
	世界文学と日本文学	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅰ	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅱ	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅲ	1
	日本語・日本文化共同研究Ⅳ	1
	言語教育対話実習Ⅰ	1
	言語教育対話実習Ⅱ	1
	コミュニケーション論	1
	広告文化論	1
	情報文化概論	1
(Ⅲ)	総合日本語コース（中級～上級）	**
(Ⅳ)	選択科目	**

* 年度によって科目の変更もある。

** 選択した科目によって単位数が異なる。

2) 研修・コース開設科目

(Ⅰ) 必修科目（60コマ、90時間）

本コースのために特別に開設されている必修科目
・「日本語・日本文化実験実習」 学外研修
・「日本語・日本文化基礎研究」
修了レポート作成のための予備指導
・「日本語・日本文化特別研究」
修了レポート作成のための指導
・「日本語・日本文化修了レポート」
修了レポート作成・発表

(Ⅱ) 選択必修科目（40コマ、60時間）

表1の(Ⅱ)の科目群から最低4科目(4単位)を選択して履修する。

授業科目（予定）とその概要：

・「現代日本語概論Ⅰ」現代日本語の音声・音韻、語彙、文法、談話・文章
・「言語学概論」人間言語と言語学への入門
・「日本語教育概論」日本語教育のコースデザイン
・「日本の文学概論」海外に翻訳・紹介された日本文学
・「日本文学の歴史」日本文学の基層となる古代文学
・「世界文学と日本文学」アニマルスタディから見た文学
・「日本語・日本文化共同研究Ⅰ」「日本語・日本文化共同研究Ⅱ」「日本語・日本文化共同研究Ⅲ」「日本語・日本文化共同研究Ⅳ」日本語の文法や言語表現、日本文化に関する日本人学生と留学生との共同研究
・「言語教育対話実習Ⅰ」「言語教育対話実習Ⅱ」日本人学生と留学生による外国語模擬授業のチームティーチング
・「コミュニケーション論」社会的コミュニケーションの受容過程と文化
・「広告文化論」広告文化のあり様と社会的背景
・「情報文化概論」比較メディア史の観点から見た現代メディア社会の成立

(Ⅲ) 総合日本語コース（中級～上級）

プレースメントテストの結果に基づいて、各自に合ったレベルを受講する科目である。技能別の上級レベル日本語の授業も含み、本学のグローバルコミュニケーション教育センター(CEGLOC)が開設される日本語コースである。ただし、日研生コースの修了要件として認められる単位数は、6単位を上限とする。

(Ⅳ) 選択科目

日本語・日本文化学類や他学類の開設する科目の中から、日研生の興味に応じて自由選択できる。

3) 見学・地域交流等の参加型科目

(Ⅰ)の「日本語・日本文化実験実習」は、学外研修であり、日本人のチューターと共に日本文化や日本人の生活について学ぶ。

4) 日本人学生との共修等の機会

(Ⅱ)と(Ⅳ)の科目は、日本人学生が履修する正規科目なので、これらの科目を履修することで、日本人学生との共修・協働の機会が得られる。例えば、「日本語・日本文化共同研究(Ⅰ～Ⅳ)」では、日本語、日本文化に関する様々なトピックについて、日本人学生と留学生とが協働で、調査、発表、討論を行う。



日本語・日本文化実験実習（国立歴史民俗博物館）

⑪ 指導体制

i) 担任教員と副担任教員が指導を行う。

担任教員 渡部 宏樹 助教
副担任教員 澤田 浩子 准教授

ii) 各日研生に日本語・日本文化学類学生が1人ずつチューターとして主に生活面を手助けする。

iii) 修了レポートを執筆する時期には、各日研生について、担任教員とは別に専門に応じた指導教員と学術チューター（大学院生）を選び指導を行う。

■ 宿舎

全員が筑波大学の単身用宿舎に入ることができる。入居時に、1ヶ月分の宿舎費(3～4万円程度)及び保証金(3万円)の支払いが必要である。また、希望すれば、大学周辺の民間アパートを借りることもできる。

■ 修了生へのフォローアップ

日研生からの近況報告や、教員からのメッセージを載せたニュースレター『日研生 E-だより』を年1回発行し、これまでの日研生全員にメール送付している。また、日本語・日本文化学類のウェブページやSNSを利用し、情報発信や交流を図っている。



日本語・日本文化研修留学生修了式

■ 問合せ先

<担当部署>

◆コース内容について

筑波大学日本語・日本文化学類

住所：〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6764（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6839

E-mail：nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

◆事務連絡について

筑波大学学生部学生交流課

住所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL： +81-(0)29-853-6090（直通）

FAX： +81-(0)29-853-6204

E-mail：isc-short-term@un.tsukuba.ac.jp

<ウェブサイト>

筑波大学：

<http://www.tsukuba.ac.jp/>

筑波大学日本語・日本文化学類：

<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/jss/>



日本人チューターとキャンパス内をサイクリング